June 20th 1910.

Report of the Sericultural Association of Japan.

No. 220

大日本蠶絲會報

第貳百貳拾號要目

▲東宮殿下西ケ原へ行啓あらせらる▼

●繭質の統一に就て　農學士　石渡繁胤

●再び歐洲に於ける本邦優等生絲の需要に就て　學務委員　今西直次郎

●岐阜の生絲　學務委員　吉池慶正

●桑赤病の話　理學士　堀正太郎

●波斯に於ける蠶業　農學士　廣瀨次郎

●三重支會が功績を表彰したる　鞆田村蠶業の治蹟　三重縣技師　立野貫一

●繭質統一は思つたより　東京蠶業講習所技手　安い　松下憲三朗

●衿を喰つて團體の蠶赤き繭を營る　中谷桑實

●放任育反對論　農學士　石田孫太郎

●印度に於ける養蠶　法學博士　須田金之助

●傷害保險と共濟組合　正金銀行倫敦支店副支配人　栗津清亮

●正金銀行と製絲資金　倫敦正金銀行倫敦支店副支配人　山川勇木

●製絲資金と釜數　原蠶高岡支店製絲所長　石井健吾

●蠶界未曾有の大計畫　農學士　大久保佐一

●米國絹業談　紫藤章

●佛國に於ける絹增量法に就て　在佛獨逸海外實業視察生　三田長太郎

▲關西製絲界の重鎮　九州蠶絲界の偉人　湯地恆雄君▼　木佐德三郎君▼

TOKYO.
The Association ;
No. 18 Nishikicho Sanchome, Kanda, Japan.

中原式乾燥器

歐米機業の進歩及び我國蠶業改善の結果乾繭器の充實は製絲家諸氏今日の重要なる急務と存候

中原式乾燥器今日の聲望は諸氏が多大の御贊助による賜と每に深謝罷在候就ては此際乾繭器の賣價を改正して諸氏が斯の急務を解決せらるゝに御便利を謀るは各位從來の御厚誼に酬ゆる道なるを思ひ六石入乾燥器に限り別記の通り賣價の直下げを斷行仕候

當春は特に乾燥器充實が良好の結果を表示致居候やに考へられ候間此機を逸せず益々御愛顧御用命願上候　謹言

火熱式六石入	舊賣價金四百五拾圓	改正價金參百八拾圓
石綿寒暖計、調帶、同	金五　圓	同　金五　圓
蒸汽式六石入上部　同	金貳百六拾五圓	同　金貳百參拾五圓

東京市本所區德右衛門町三四

特許中原式合資會社

（電話浅花二二二六番（電略ナカ）
（振替貯金口座一六五〇四番）

會報購讀の諸君へ稟告

本會々報代は是迄各支會に於て徴收方取扱ひ居り候處今月より全部本會に於て直接取扱ふ事に致し候間此段稟告候也

追て會報代前金切れの諸君は此際至急本會へ御直納相成度候

明治四十三年六月二十日

大日本蠶絲會

振替貯金東京一二〇六番

大日本蠶絲會報　第貳百貳拾號

目次

●西ヶ原へ行啓あらせられたる東宮殿下の御肖像並東京蠶業講習所献納品
●山陰製絲界の重鎮木佐德三郎君
●第十回關西府縣聯合共進會特別蠶絲館並蠶絲品審査の光景……一—二
●東宮殿下西ヶ原へ行啓あらせらる……三—六
●東京殿下西ヶ原へ行啓あらせらる……三—六

論議

●繭質の統一に就て……農學士　石渡榮胤
●再び歐洲に於ける本邦優等生絲の需要に就て……農學士　今西直次郎
●岐阜の生絲……農學士　吉池慶正
●桑赤澁病の話……農學士　堀正太郎

集芳

●波斯に於ける蠶業……農學士　廣瀨次郎
●三重縣下に於ける蠶業の治蹟……三重縣技師　立野貫一
●繭質統一は思つたより安い……東京蠶業講習所技手　松下憲三朗
●柃を喰つて團體の蠶赤き繭を營る……中谷桑實
●放任育反對論……石田孫太郎

調査

●印度に於ける養蠶……農學士　須田金之助

叩門

●傷害保險と共濟組合……法學博士　粟津清亮
●正金銀行と製絲資金……正金銀行總支配人　山川勇木
●金と釜數……第一銀行横濱支店長　石井健吾
●蠶界未曾有の大飼蠶……原富岡製絲所長　大久保佐一

●米國絹業談……農學士　紫藤章

肖像

●山陰製絲界の重鎮木佐德三郎君……編者
●九州蠶界の偉人湯地恆雄君……編者

遠響

●佛國に於ける絹增量法に就て……在佛國海外實業練習生　三田長太郎
●佛國に於ける千九百九年度の收繭高……五〇—五二

資料

●千九百九年度對千九百八年度全世界生絲生産額表……五三

實務

●養蠶年中行事……愛媛縣立農業學校教諭　池田榮太郎
●横濱市場……五四—五九

絲況

●紐育市場……馬場由
●里昂市場……六〇—六四

會務錄事

●支會職員の囑託＝地方委員部職員の囑託＝特別會員の推擧……六四

問答

●害蟲買上の件に就き質問並答●養蠶業收支計算に就き質問並答●蠶室排氣用圓筒に就き質問並答●人工越冬三化蠶種製造に就き質問並答……六五—六六

蠶桑雜觀

●生絲の富士山大好評●生産調査會＝蠶種荷造替立替金＝生繭輸送上の注意＝生絲整理法習得證書授與＝世界の蠶況＝各府縣の蠶況＝東京蠶業講習所の蠶況＝豐橋玉繭強賣特定＝日本生絲直接取引＝記念宮翼帖約募集（六十三頁）●文藝●蠶海漁夫の紹介＝實驗桑園育の苦訣（五十頁）＝日本の蠶絲業（五十一頁）＝猫（五十三頁）＝師範課程記學教科書（五十九頁）……六六—七六

講習生募集

男子部 第一期生　**女子部** 第二期生

講師 專門大家博士、學士廿四名講述（講師名及學科目は一月より四月迄の本紙にあり）

期間 一箇年　既に六號迄發刊せり（全部千二百餘頁）

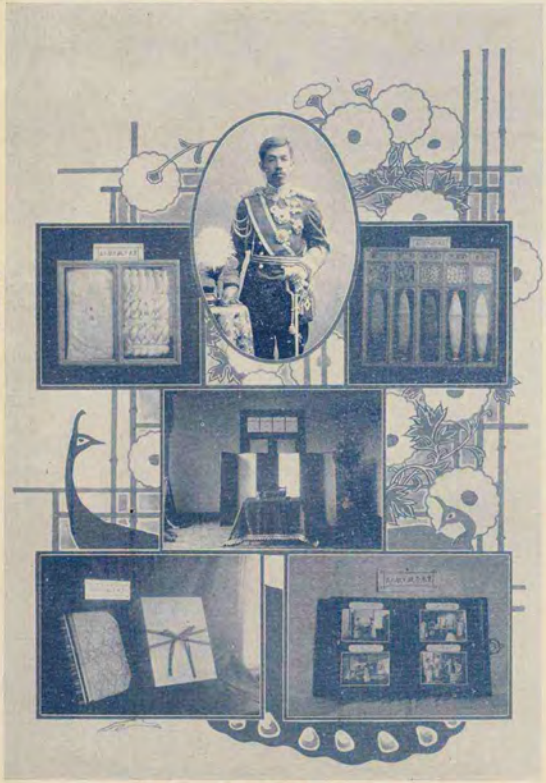
講習料 本會々員は貳圓　會員外は參圓

今が申込の最好機です、諸君の精力を注ぐべき夏秋蠶は目前に迫つて居ります、此の際蠶業經營に關する基礎的學科を咀嚼せられて其任務を充分に、遺憾なく盡されんことを切に御進め致します……現今我國第一流の蠶業學者の熱誠を注がれた講義が全部に亙り千二百頁に餘る程で僅か貳圓です……實に安いです……安いのに驚く人もありませう……之れ蓋し本會が我蠶絲業界の爲に貢獻せんと常に期待する微衷の一端に過ぎませの

發行所　東京市神田區錦町三丁目十八番地
電話本局一四七三
貯金口座東京一二〇六
大日本蠶絲會

六月二日西ヶ原へ行啓あらせられたる東宮殿下並に東京蠶業講習所よりの獻納品

S. A. I. le Prince héritier qui a daigné visiter, le 2 Juin, la Station séricicole de Nishigahara et les objets offerts par cette Station.



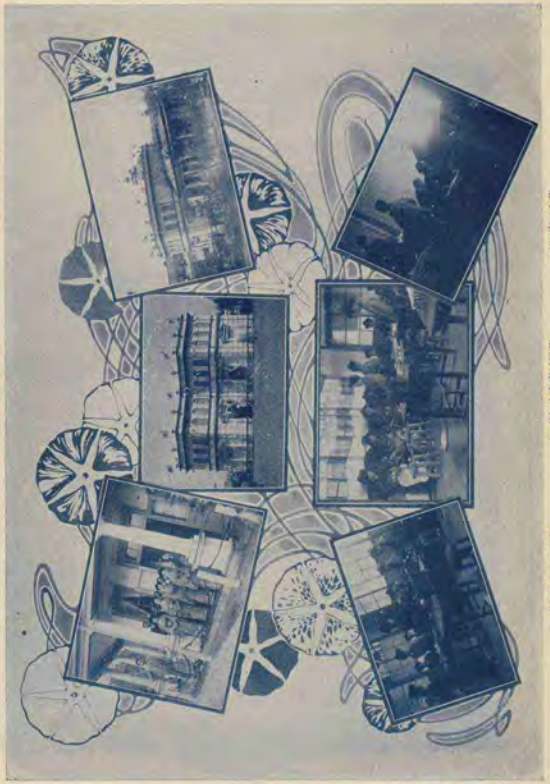
獻納品　　假御座所　　獻納品

獻納品

獻納品

關西製絲界の重鎮木佐德三郎君

Monsieur T. Kisa, éminent filateur à Kwansei.



第十四圖　名古屋市内博覽會場

第十三圖　名古屋市内博覽會場（其一）

第十二圖　名古屋市内博覽會場（其二）

第十一圖　名古屋市内博覽會場

第十圖　名古屋市内博覽會場

（製絲業部出品）

第十回　名古屋市内博覽會場西園

第十回　名古屋市内博覽會場内博覽會場共全景

第十回　名古屋市内博覽會場

第十回　名古屋市内博覽會場

第十回　名古屋市内博覽會場

作業、第三試驗室に於て種試驗及飼育法試驗の實況第一試驗室に於て各種試驗飼育の實況、第二試驗室に於て蚕屋蠶室に於ける蠶兒飼育の實況並に除沙の作業、貯桑場に於て桑葉の實況を順次大略御覽遊ばされたる後、御休憩所に入り御時間に渡らせ給ふ御心に外ならずと推察るだに畏し、是一視同仁の御覽あらせられたり、尚ほ是より玉座を見本桑園に移させ給ひ、更に第二標本陳列室に於て蚕種病の紋羽病、赤蛆病、枯病、蠶卵の孵化、蠶兒の氣門閉鎖、蠶兒の頭部に附着し食桑消化、卵管、畑草中毒、蠶體解剖模型、呼吸用顕微鏡、蠶兒の部の切斷面、各種蠶繭模型、蠶兒の雌雄模型、蠶繭の各種、蠶種消毒器等に就き、或は顕微鏡を吸かせら倒病、蠶蛆病、蠶卵の下間、あらせられる、等に注意し給ひ、乾繭場に入らせ給ふには一同恐懼し奉れり、亟て製絲場に於ては本科二年生繭選別の作業、殺蛹、乾燥室に於ては林式、乾繭器、繭取板、繭選別器にて繭取及び小、繭分の實況、幷に乾燥、乾繭器に於ける繭選別本科二年生男子作業、殺蛹、乾燥室に於ては水熱、殺蛹、乾燥實習の作業

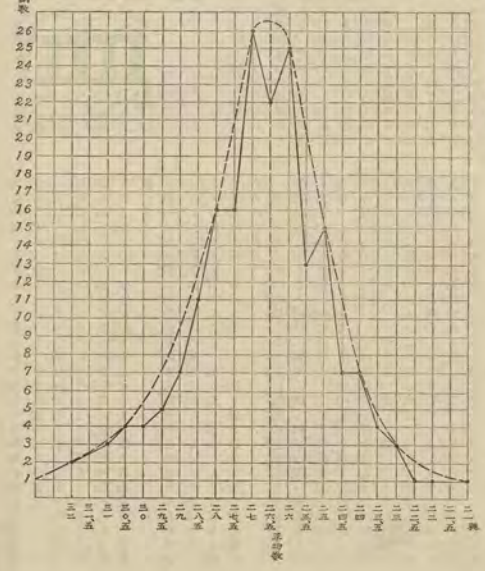
全く別物の様である、一生物が生じたもので其範圍によりて其差を其數によりて高を顯はし、之れを接續して線を作ると中央の高い一種の曲線を作ることが出來る、其最も高いところが平均數である、之を即ち振動變異と云ふのである、生物には必ずかれぬ現象である、つまりは品種は其曲線の正しく其幅のせまいものがよいわけである。

今蠶の繭の大さに就き外山博士が調査したものを擧げると左の如くである。

第一圖

『四化蠶の繭の長さを測りたるに左の如き數を得た（同一一母蛾の產卵を解化したるものにして同一蠶室中に飼育したるものなり）

長さ（ミリメートル）	頻數
二一、〇	一
二一、五	一
二二、〇	三
二二、五	四
二三、〇	七
二三、五	一一
二四、〇	一三
二四、五	一一
二五、〇	七
二五、五	三
二六、〇	一
二六、五	一
二七、〇	一六
二七、五	一六



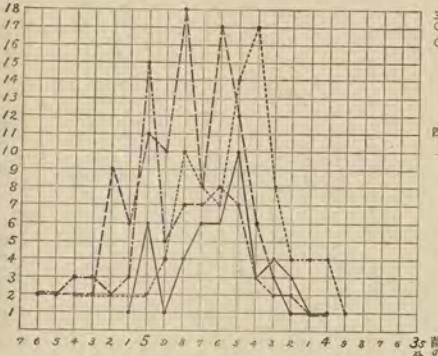
前記したる數を其多少と數とに任せて順次排列したるものは實數の曲線にして點線は之を連續したる假線なり黑線は之を其數により蛾中に順次排列し、其次點に連續するときは圖の如き曲線を生ずる、其數は光分多くないやうであるが如き曲線をなしたるは明かである、是は諒必ずしも形狀をなさないけれども全線が點線を以て示したる規則正しき形狀をなしたるものである、是は諒必ずしも形狀をなしたるは明かである、是は諒必線と稱し、其中心線に當りたるものは二十六、五ミリメートルの大さを爲したるものにて全體の平均數と一致す』

繭以外に總ての點に即ち蠶兒の斑紋、蠶蛾の斑紋の濃淡で形の大さ等に於て之れと同一のものがあるのである。

而して同一品種でも土地を異にし、又飼育をすることにすると、生物自然の理から變異を生ずるのであるは勿論である、其實例は澤山ながら、然しながら同一系統のものであつて、飼育其他の狀況を可成同一にしたならば變異の差を少なくすることは出來やうと思ふ、假令は三十六年から三ケ年間行つた蠶種々類試驗を見ても飼育法の異るによりて來た結果から種々の點に差を生ぜしめて居るものがあるけれども、生產物其者には著しい差がない樣である。

又蠶を以てして現在生產されて居る所の生絲よりは飼育所のものを作ることが出來ると思ふ。

第二圖



長さ（ミリメートル）	頻數
二八、〇	一六
二八、五	一一
二九、〇	七
二九、五	五
三〇、〇	四

長さ（ミリメートル）	頻數
三〇、五	四
三一、〇	三
三二、〇	二
平均　二六、五	一九二

繭の中間

一に製絲家の原料繭に就ての繭の大さを調査してこれが振動變異と同じ樣な線を畫くものであるかと云ふにこれは混繭であるからそうは行かぬ。

第一號

繭目	短徑	長徑
3.5	4.0	8.7
3 6	4 1	9 6
3 7	4 2	9 6
3 8	1	9 7
3 9	1	9 7
1	4 3	9 8
1	1	9
4 0	1	9
1	1	9
1	4 4	
1	1	100
1	1	10
1	4 5	10
1	1	10
1	1	
1	1	102
1	1	10
1	1	103
1	1	1
4 1	1	1
1	1	1
1	1	1
4 2	4 6	104
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	105
1	1	1
1	4 7	1
4 3	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	4 8	1
4 4	1	107
1	1	108
4 5	1	109
1	4 9	1
1	5 0	119
1	1	1
1	1	1
1	1	111
1	1	1
4 7	1	116
5 0	5 1	120
41.7	45.9	103.6 平均

第二號

繭	短	長
3.5	4.0	8.6
3 7	4 1	8 8
3 8	4 2	8 9
1	4 3	1
3 9	1	9 0
1	1	9 1
1	4 4	1
4 0	1	9 2
1	1	9 3
1	1	1
1	1	9 4
1	1	1
1	4 5	9 5
1	1	1
1	1	1
1	1	9 6
1	1	9 8
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	1
4 1	9 9	
6	100	
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	101
1	1	1
1	1	102
1	1	1
4 2	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	103
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	1
4 3	1	104
4 3	4 7	104
1	1	1
1	1	1
1	4 8	105
1	1	1
1	1	1
4 4	1	1
1	1	1
1	1	106
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	107
1	1	1
1	1	1
1	1	1
4 5	1	108
1	1	1
1	1	1
1	4 9	1
1	1	1
1	1	109
1	1	1

第三號

繭	短	長
3.5	4.0	8.6
3 7	4 1	8 8
3 8	4 2	8 9
1	4 3	1
3 9	1	9 0
1	1	9 1
1	4 4	1
4 0	1	9 2
1	1	9 3
1	1	1
1	1	9 4
1	1	1
1	4 5	9 5
1	1	1
1	1	1
1	1	9 6
1	1	9 8
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	1
4 1	9 9	
6	100	
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	101
1	1	1
1	1	1
1	1	102
1	1	1
4 2	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	103
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	1
4 3	1	104
4 3	4 7	104
1	1	1
1	1	1
1	4 8	105
1	1	1
1	1	1
4 4	1	1
1	1	1
1	1	106
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	107
1	1	1
1	1	1
1	1	1
4 5	1	108
1	1	1
1	1	1
1	4 9	1
1	1	1
1	1	109
1	1	1

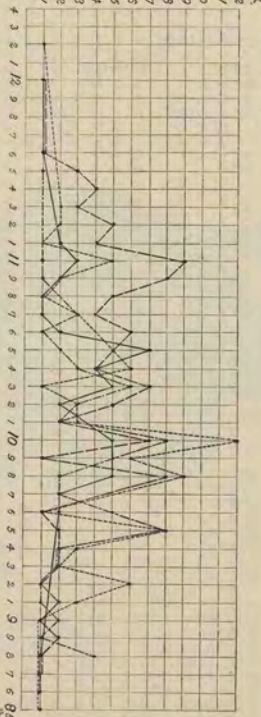
第四號

繭	短	長
43	1	1
43	1	108
44	1	109
44	1	1
44	1	110
44	1	1
45	49	1
45	1	1
45	1	1
45	1	111
47	50	112
48	50	112
48	54	113
39.3	45.0	100.1

第五號

繭	短	長
34	39	85
35	40	90
〃	1	91
〃	1	1
36	1	1
1	41	92
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	42	1
1	1	1
37	1	93
1	1	1
1	43	94
1	1	1
1	1	1
1	1	95
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	44	1
38	1	1
1	1	1
1	1	96
1	1	98
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	1
39	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	99
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	45	1
1	1	1
40	1	100
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	45	100
1	1	100
1	1	100
1	1	100
1	1	100
1	1	100
1	46	101
1	1	〃
1	1	102
1	1	1
1	1	1
1	1	103
41	1	104
1	47	1
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	1
42	1	105
1	1	1
1	1	1
1	48	1
43	1	1
43	1	107
43	1	1

第一圖



徑の短かきものより順序に並べたのである、これによつて第一第二第三第四號の長徑及短徑に就て圖を作つて見ると第二第三圖の如くである。

短徑	長徑
41	33
42	35
43	36
44	36
44	37
44	38
45	38
45	38
45	39
45	39
45	39
45	39
45	40
46	40
46	40
46	40
46	40
46	40
46	40
47	40
47	40
47	41
47	41
47	41
47	41
48	41
48	42
48	42
48	43
48	43
48	43
49	43
49	43
49	43
49	44
49	44
50	44
50	45
50	45
50	45
50	45
50	45
50	45
50	45
50	45
50	45
50	45
50	45
51	45
51	45
52	46
52	46
53	46
53	47
53	48
54	48
54	48
54	48
55	50
56	50
49.3	42.3

とれてはうまい絲は得られない、これは混紡の爲めである、これによつて而して其高低が正しく平均した繭を有して居るものが善い絲を製すると云はねばならぬ、然るに此内にはこれと反對になつて居るのもある、これは繭丈に對する調査であるが、他の點に於てもそれと同樣のことがあると思ふ、故に現在の繭を以つてしても現在生産されて居る所の生絲よりは向善い所のものを作ることが出來ると思ふ、製絲の改良が目下の急務であると云ふたのである。

繭質統一は健全にして系統の正しき品種の普及と統一した飼育によりて可成差異の少ないものを作つて成可製絲業者の便利を得せしめ、製絲家は製絲上の改良工場の整理によりて以て統一したる生絲を製し、生絲の需要者即ち大機業家の注文に應ずべきである。

再び歐洲に於ける本邦優等生絲の需要に就て

學藝委員　今西直次郎

日本絲は支那絲と性質も用方も異つて居る

日本優等生絲の歐洲に於て支那器械製絲と競爭の出來ない

本邦優等生絲は何故に歐洲に輸出せられぬかと云ふ問題に就て昨年十一月發行の大日本蠶絲會々報に聊か愚見を述べた、同題は猶ほ疑點を多々あり、又我蠶絲業の改良に大關係ありて時々内外當業者と意見を交換し大に研究しつゝあるが、現に日佛國里昂に於ける余の友人にて最も有力なる生絲商會主より此問題に關し余の質疑に對する答に日本より米國に輸出せらるゝ十三乃至十五「デニール」の優等太絲は里昂其他歐洲諸國の顧客に見本を送り、試賣したことは屢々あるが、機業家は此優等品に重きを置かぬ樣である、其理由は確答し難いが、大要左の事情によりて需要せられぬものと思ふ云々である。

日本優等品と歐米職工の巧拙との關係

日本優等品の米國に最も多く出せらるゝは同國職工の生絲取扱方に巧みならぬと、其賃銀が甚だ高いのとある同國に仕向ける生絲は先づ再繰中切斷の少きものに注意して居る、之れが爲め十三乃至十五「デニール」の太絲を好んで細目物は殆んど使用して居らぬ

日本太絲は日本太絲よりも一般格安で品質も相應に宜しい、里昂に於ては最も善く賣行いて居る。

譯は支那製絲の大部分は九乃至十一、若くは十乃至十二若くは十一乃至十三「デニール」絹物であつて、十三乃至十五「デニール」の品は其用途殆んど皆無である、且つ此器械製絲は日本に於り見ない特種の性質を有して居る樣である、即ち其繭質を能く調べて見るに絲筋は圓滑に其趣味の豐富なること、纖度の均一なること、事實信用しつゝあるが、九乃至十二「デニール」の如き細物は再繰一工女の撥當枠數六十個に過ぎないも、日本絲同一の纖度にて一番乃至一番半（上上）番又は其以上のもの）の品にて再繰百枠を撥當し得らるゝものよりも、一「キロ」に付き二三法以上高くも支那產の方を歡迎して居る、是れは絲質上如何とも致方なき次第である、加之從來織物に供する原料は一般其途を定めたるものにて、今更に之れを變更することは容易の業でないと思ふ。

伊國優等品の用途は支那と同樣

伊太利優等生絲は支那の優等器械製絲と同じく品質優良で特に伸度に富んで居る、之れを織物に仕上げた結果は地合滑かに且つ光澤美しく、常に機業家の嗜好に適ひ、大に歡迎せられて居る、而して伊國質繭絲の優等物は近年流行の一本經に用ひらるゝもので其纖度は十一乃至十三若くは十乃至十二若くは九乃至十「デニール」のものである、日本絲上番又は其以上のものは是等飛切品と競爭し能はぬものである。

其他東歐「ブルース」の太白絲は日本太絲よりも一般格安で品質も相應に宜しい、里昂に於ては最も善く賣行いて居る。

歐洲は之に反して多年職工は概して生絲取扱に熟練して居るから、優等細絲を使用するも餘り困難を感じて居らぬ、之れを要するに歐洲の機業家は生絲の品質も善く直段も高からぬ種々の纖度即ち九乃至十一若くは三十八乃至四

十「デニール」のもの迄隨時市場に需め得らるゝが故に、始終十三乃至十五の同纖度を供給せらるゝ日本優等品は自然重きを置かぬ樣になる米國職工の巧みなる、其賃銀は甚だ不廉であるから、生産力の關係上、開西其他の優等品が甚だ比較的高價を支拂はれてあるが、歐洲に於ては十三乃至十五「デニール」の日本絲用途は上一番にて足れる狀態である、之れに由て之れを觀れば歐洲向日本優等絲の新販路を開くことは甚だ六ヶ敷きことと稱する迄である、然し乍ら歐洲向日本絲は「ウウレゾンシ」と稱する燃絲用即ち生絲に撚を施し、之れを絲り、之れを染め、然る後織立つる原料には頗る適當するもので、其需要は實に尠からぬものである、其細太を問はず纖度能く物に和ひ、細節を薬ですれば歐洲に於ける日本上一番の需要は益々増加するとも減することはないと思ふ云々である。

決局日本絲質の改良を施すの外良策はない

本邦優等生絲の歐洲に對する需要如何に關しては夫人某の說き來たるものと、疑きに余の述べた意見と大同小異にして作過も誠に且下其販路を需め難い事情である、惟ふに我製絲家も全國最優等の繭を精選したれは或は伊、佛、清の如き優等細物を製造するならば、米國に優等太絲に對する需要は尠からざるが、此の點に於ては以上は其方針を變更して載迎すれば、我生絲が年々加算されんとして如何に歐洲に上一番の需要が多けれども、其方策である以上は、我製絲家も、之れに對する以上は、其方針を變更して

工女養成の必要なる所以

である、此縣が生糸改良の第一に着手として工女の養成を図るは實に其宜しきを得て居る、元來岐阜縣は飛騨に美濃に人口稠密の地方で工女の產地である、されば信州尾州地方に出稼する者は頗る多い、併し折角出稼をなさ工女である、島谷の衆である、到底デュールの整一なる優良の品を得ることは出來得ない。そこで業向き製絲家の同盟團體に模範製絲工女養成所を設けたが、此所で明治四十年以來三ヶ年にして養成せし工女の數實に三百二十餘人の多きに達した、凡て物の改良を圖らんとせば

頭の洗濯は必要

である、何となれば頭の腦味噌中に滿ての氣が實入して無形の改良が行はれて始て器械の改良、技術の改良、經營の改良と云ふ樣な有形の改良が行はるゝのである、そこで製絲家及製絲教師の間を利用して四十一年及四十二年度に於て二回ヶ月間春季製絲講習會を開設した、其費格は官費月謝金である製絲家の子弟及現業員である所の男子と、模範工女養成所を修得せし者か又は製絲所の優等工女にして尋常小學卒業以上の者に限つた、此講習會を修得した人員は男子三十二人、女子四十二人あつて、男子は此縣の技手郡の巡回教師又は製絲所の監督者及現業員となり、女子は各製絲所の教婦となりて貢献しつゝあるが、とそれから又此縣の生糸の美を區々となりて

るのを改良する爲に東京蠶業講習所より專門の教師を招聘して講習會を開き、各製絲所より七十五名の講習生を養成したが、生糸東装の上に新面目を與へた、更に生糸の改良を變更すべく有志者の熱誠が萌まつたのは明治四十一年度は十六圖體六千百六十八釜で、翌四十二年度は十八圖體六千四百九十五釜である、今其實蹟が業務の上に如何に發現したかを見よう。先づ

繰絲の工程

に就て之を言ふならば從來は工女一人一日の平均繰絲量は五十一匁五分四厘に過ぎなんだが、教師を派遣し、改良を實施した今日に於ては六十一匁九分七厘に進んだ、それで團體員の繰糸量は一萬六千二百九十四貫を製造する爲に改良前に於ては、延人員百四十八萬二百八十七人を要したけれども、今日には百二十三萬千百四十四人で足る譯で實に二十四萬九千百四十三人の延人員をば節減し得ることゝなる、そこで工女一人の給料金二十錢と見るも約四萬九千八百餘圓、食費一人一日金十五錢と見るも三萬七千三百餘圓、都合で八萬七千百餘圓は工程節約の結果贏ち得たる利益である、更に

成品の品位

如何と顧れば、教師赴任前に於ては、製絲場に依りて一樣ではないけれども、岐阜の生糸は買れぬとの悲聲を放たれ、破談ベケの續出しだ位であるから價格も從て低く、信州上一番に比較して概して三三十圓安位であつた、所が改良後に於ては四五十圓高となつた、そこで平均百斤に付七十三圓高と見積り算盤を據れば各團體員の製絲總額四十七萬六千八百三十七斤に對して三十四萬八千九十一圓餘の利益を增した割合であると、今一歩進めて

繰絲の絲量

如何を調査せんか乎、是も大に觀るべきものありだ、尤も絲量は其原料たる繭に依り繭は其年の養蠶の豐凶に依りて相違があるから、其判斷は餘程六かしい、故良實施前にありては一升の絲量春蠶は九匁八分、夏蠶は八匁五分、秋蠶は八匁八分を普通とした所が、現今に於ては春蠶は十匁三分、夏蠶は九匁秋蠶は九匁三分を得ると云ふ次第で平均五分强の絲量を增すことを認めた、彼の教師赴任前にありては九十九貫六百六十七匁の繭で一梱の生糸を搾つたものが、今では九十四貫三百八匁で一梱を製造し得る譯だから實に五貫百二十九匁を節約することが出來るのである。それだから團體の總生產額八千四百七十七梱の生糸に就ては四萬四千三百二十六貫匁の原料を節約することゝなり、生繭一貫匁五圓とすれば實に二十二萬千六百三十五圓の利益を得る勘定である、此等三種の利益に加ふるに團體員外の製絲業者は改良の狀況を見聞して自家の製造に應用したものも尠くないから彼れ是れ綜合計算したならば改良實施後に於ては約七十萬圓の利益

潛航艇一艘の製造費

を得た譯である、若し此改良を行はなかつたならば此莫大の利益は雲散霧消し去るものに違ひない、然るに本縣は製絲改良の一定の方針を定め、毎年一萬千餘圓の事業費を支出し、幹部に術業に精通せる技師を置き、之が手足となるべき技手をば當業者をして結合せしめたる團體に派遣し、首尾相待て此改良をば遂行し得たるは寔に多とする所である、余は此方針を持續して此改良を十八圓體以外全縣下に普及せしめられんことを希望して止まざるものである、終に望て本縣の生糸が生糸檢査所の

照寃鏡に顯はれたる成蹟

を抽出して參考に供するも敢て無益の事ではあるまい。（稿生技師調査）

年	月	産地	切断アニーの葉	大額	小額	張力	伸度
三十六年	十月	岐阜中太	細一〇	三七二	二四九	二〇〇四	
		岐阜中太	五	四七五	二六九	二〇一〇	
		岐阜中太	九	四七九	二六五	二〇一三	
		岐阜中太	一五	三七〇	二五三	二〇〇四	
		岐阜中太	一八	四三六	二八三	二〇一〇	
		岐阜中太	二四	四五六	三三〇七	四四八	
四十年	十一月	岐阜中細	七	四〇〇	一一八二	四二九	二一四
		岐阜中太	七	四六七	一一九二	四五一	二一一八
		岐阜中細	八	四〇七	一一九五	五一〇	二一一二
		岐阜中太	一一	四二六	一一九五	四二六	二一一二
		岐阜中太	一八	四六四	二一二六	四七九	二一一九
		岐阜中太	二四	四七八	二一二一	五〇七	二一一二

桑赤澁病の話

病狀

春の芽出當時から秋落葉期迄の間絶えず、幼芽、幼梢、葉片、花蕚、果實に發生するけれども、幼芽と葉片とは一番多く、發病の初期は春の芽出當時であつて小葉が一二枚も開いたときには、誰れにても明に認め得られる、病芽は初め淡黄色を帶び太く膨大して、多くは一方に彎曲する、時として葉には環狀に曲ることもある、表面は無數に橙黄色の小粒點があつて、後には此小粒點から橙黄赤色の粉が散ずるから、病芽は遠目に此橙黄赤色の粉末に染みれて、綠葉と反照して甚だ美麗に見える、斯の如き病芽か一枚に少いときは一箇、多いときは二三箇も出來ることがある。健芽の破裂して二三枚の葉が開くと間もなく其葉面に點々橙黄色の小粒點が顯れる、葉面全體に蔓延して無數に小さい橙黄赤色の粉末で覆はれる、此病葉は生じ病芽に出來た葉は風に散じて近傍にある開いた葉に附着する、夫れから病葉に出來た黄粉は又葉に散じて他の開いた葉に附着すれば又其葉に發病する、斯樣な順序を逐ふて全株の葉は老幼の別なく悉く發病し、又一株から一株に段々附近の桑樹に傳染して行くから、一箇の病芽があつて數個月の後には廣大な桑園に傳染蔓延するのである、若し春季桑葉の二枚開いたときに偶々其葉に橙黄赤色の病斑點を發見したならば、仔細に病葉の附着して居る枝を點檢して見れば、必ず何處かに病芽を發見する、病芽に相違ないから開いた葉に發病した病毒の本源は病芽から傳播して來たものであるといふことから判るのである、未だ腐化しない、新梢にも發病する、之は無論病葉から飛散した病毒（黄粉）の附着して發生したのであつて、病斑點が顯れ出る頃になると、又は稍〻膨脹をしたる黄赤色の粉が散るのは病葉に於ける後に此部分から橙黄赤色の粉が散るのは病芽が病葉に變じて仕舞つた頃になると病斑部は褐色に變じて萎むから、恰も小指頭大の褐色の瘡痂を生じた樣に見える、尚ほ時日が經つと墨褐色に變じて龜裂を生じ強い風に雨に出逢うと、此部分から折れ易い、又斯の如き病斑が深山に出來た枝は翌年になれば枯れ易い、左なくとも僅か許りしか新芽を生じない、枝に生じた黑褐色の病斑は翌年になつても判然と縱つて居るから、枝を詮察した丈で其桑樹は前年の夏季に赤澁病に罹つたものであるといふことが判る、又其病斑點の多少に依つて病害の輕重を推測することが出來る。

一度發病すれば枝を伐截しない限りは毎歲發病を免かれない、本來喬木仕立の桑でなくとも桑園に樣に發病する、又毎歲枝を刈り取る刈桑であつても、毎歲枝を切らずに放置とく、一年上に枝を切らずに放置とく、稱に自發して病芽を生ず

本病は桑の周年病であつて、桑園に有る限りは毎歲發病を免かれない、本來喬木仕立の桑でなくとも桑園に樣に發病する、又毎歲枝を刈り取る刈桑であつても、稱に自發して病芽を生ずることがあるが、之は前年の夏季に近傍にあつた病立桑から飛散した病毒が風に散じて近傍にある開いた葉に附着して發病する、夫れから病葉に出來た黄粉は又葉に散じて他の開いた葉に附着すれば又其葉に發病する、斯樣な順序を逐ふて全株の葉は老幼の別なく悉く發病し、又一株から一株に段々附近の桑樹に傳染して行くから、一箇の病芽があつて數個月の後には廣大な桑園に傳染蔓延するのである、若し春季桑葉の二枚開いたときに偶々其葉に橙黄赤色の病斑點を發見したならば、仔細に病葉の附着して居る枝を點檢して見れば、必ず何處かに病芽を發見する、病芽に相違ないから開いた葉に發病した病毒の本源は病芽から傳播して來たものであるといふことから判るのである、未だ腐化しない、新梢にも發病する、之は無論病葉から飛散した病毒（黄粉）の附着して發生したのであつて、病斑點が顯れ出る頃になると、又は稍〻膨脹をしたる黄赤色の粉が散るのは病葉に於ける後に此部分から橙黄赤色の粉が散じて仕舞つた頃になると病斑部は褐色に變じて萎むから、恰も小指頭大の褐色の瘡痂を生じた樣に見える、尚ほ時日が經つと墨褐色に變じて龜裂を生じ強い風に雨に出逢うと、此部分から折れ易い、又斯の如き病斑が深山に出來た枝は翌年になれば枯れ易い、左なくとも僅か許りしか新芽を生じない、枝に生じた黑褐色の病斑は翌年になつても判然と縱つて居るから、枝を詮察した丈で其桑樹は前年の夏季に赤澁病に罹つたものであるといふことが判る、又其病斑點の多少に依つて病害の輕重を推測することが出來る。

一度發病すれば枝を伐截しない限りは毎歲發病を免かれない、本來喬木仕立の桑でなくとも桑園に樣に發病する、又毎歲枝を刈り取る刈桑であつても、毎歲枝を切らずに放置とく、一年上に枝を切らずに放置とく、稱に自發して病芽を生ず

病原

本病は葉澁黴菌（Exoblasteia）子嚢菌科（Pseudosphaeria）に屬する病園の寄生に依つて起る空氣傳染性の病害であつて、本菌は「エイシジウム、モウリイ」（Aecidium Morii Barclay）である、今本病園の標徴を掲げて參考に供さう。

焦落は橙黄色を帶び葉には南面に生ず、護膜は發育不完

桑園學士　農學士　堀　正太郎

全なり、腔胞子は球形又は楕圓形を爲し表面に細粒點あり内容物は橙黃色を帶び、細粒狀を爲す大さ短徑一一一五「ミュー」長徑一五—一八「ミュー」普通に直徑一二「ミュー」のもの多し、胞子皮は無色なり、罹膜細胞は六角形を爲し無色なれども時としては橙黃色の細粒を含有することあり、外皮に條紋あり、短徑一一—一六「ミュー」長徑一八—二二「ミュー」あり。

蠶絲の形態にて桑の枝梢の組織中にて越冬の腔子を以て空氣傳染に依りて桑の葉、新梢、幼芽、花器、果實に赤斑病を發生す病芽は膨大して畸形に彎曲す、印度、支那、日本、蒙古（モンゴル）に產す。

次回には病蟲の傳染の方法被害の狀況等をお話し致さう。

（以下次號）

▲無關門

蠶種の統一問題に本邦實業界及政治界の大問題となつたか去五日の東京毎日紙に左の記事があつた面白いからこゝに掲げよう

三日の財界振興會で桂總理、財界の今日あるに、政府の財政計畫悉く當ら今日の財界振興會で桂總理が拜べること一時間餘、ヤアトの事、ソレが終つたと思ふと云ふのて、意見も種々もつたものでない▲食事が濟んでから、岡川次官應接に邸ち上がり、今度は蠶種統一について長談義を始めたのて、列席の實業家達も、驚かし談ぜにアタられたと見え、意見が喰へて吐きさうだ▲其中で原宏郎で種統統一は困難だが、ソレでも實行に優る」と强硬先ん方本官ひ、朝吹英二はまたナンと思つてか、浸野經一郎から出演して「實業活動の結局は別重役に在りー」と芝居が打つ、ソレで閉會とは呆れ無き過ぎるテ

の增加に伴ひ殺蛹場を建築する者もありて、ペーラン地方の蠶の中心市場レクトには八萬圓を投じて一期間に三十萬基の生繭を殺蛹し得べき歐洲風の廣大なる工場を建設した、其構造は乾燥熱氣を使用し、生繭の殺蛹を終つた、後は生繭の重量三分の一まで に本乾燥して直に輸出せしむるものである。此繭蔟殺さずして死なる者がある、温度を過ち繭質を損傷することはないけれども、殺蛹後二三個月間除乾せなれば、殺蛹したる繭は之を上中下及び同功繭に別ち上繭は更に一二二等に選別して伊太利及び佛蘭西の製絲家に買收らるるのである。

繭價は地方官、外交官、大地主及び繭商合一して養蠶期前に豫じめ協定せらるるけれども、養蠶の因と歐洲市場の相場に從ひ、往々烈しき變動があつて、生繭一貫三圓乃至四圓二十錢の間を上下し、千九百八年には近年稀れなる凶作であつて、繭價は大に騰貴する傾向を增し、其年の秋蠶期に下落の影響を受け平均二圓七十錢に下落したが、輸出額も既往の統計を觀ると增減常なく乾繭四十六萬貫に達したこともあり又は其半額に減じたこともあつて、平均を示すに苦むけれども、先づ四十萬貫即ち百五十萬基とすれば大差はなからう。

繭種統一の發起者　廣瀨次郎氏

繰絲と質銀

國內にて繰絲せらるゝ生絲は細太の差、其しく不同であるから、土耳其又はシリアに輸出せらるゝの外は國內に於て消費せられ、伊、佛機業家の需要に應ずることが出來ない、殺蛹後繰糸商は農家を巡回して繰絲の見込ある者は乾繭二貫匁七圓の手附を與へ、幾金は現品引取の節時價に應じて支拂ふものである、近年同國に於て百五十釜の佛國式製絲場を建て佛國人を雇して其の場長となし、相互の利益を收る者であるけれども回々教の主義として男子は其の妻女以外の婦人の間に使用することが出來ないから、工場の監督に不便を免れない、けれども女の賃錢は頗る低廉であつて優等工女でも日給四十錢を超へない、雜役工女は八錢乃至十錢であるから適當に管理をすれば充分なる利益を得らるるのである。

集　蠶業

波斯に於ける蠶業

農學士　廣瀨次郎

平附一枚の收繭量

飼育法は此の如く組雜であるから蠶卵一箱即ち我が平附一枚分の收繭量は平均十八基乃至二十基五貫餘に過ぎない。

ペラン地方のチリンバルは凡そ九萬て既ね耕地及び桑樹と共に大地主の所有であつて、地主は小作人に蠶種をも供給し收繭の三分の二を收め三分の二を小作者に附與するのである、其總收穫高は年に依り豐凶に著しき差があるけれども、凡そ五百萬基即ち百三十萬貫生繭であつて、一室にて三箱を養ひ十四五貫を得るに過ぎない。

殺蛹乾燥の方法

從來同國で繭を殺蛹するには日光に曝露するか、又は一貫夜殺及び桑で燻熱するものであるけれども、近年外國輸出

ギーラン大守の奬勵……ラフオン順問の養蠶

ギーラン太守ゼヒル、ドブレ公は蠶業の有利であることを認め、佛國より技術者を招聘して蠶絲局を設け、改良と、金圖より五間半、間口四間四分の小屋を建て、四方は蠶を以て囲み、一個の入口と七個の窓を作りて、咬、家の後通を開き、奥行五間半、間口四間四分の小屋を建て、四方は蠶を以て囲み、一個の入口と七個の窓を作りて、咬、家の後通を開き、床板を低くして地上一尺七寸の所に張り、此上に蠶架を設け蠶質を見て四段の棚を作り、通行路は側に傾斜し、中間に二條即ち幅三尺の室所四條を設け桑除沙等の便を図り、正味一オンス入りの蠶坪四箱分を飼育し、五齡に至る、一箱分の蠶兒三尺三寸の道一條を撰し、給桑回數は一回增加し、一日四回としたるに二回とし、蠶座面積と大差なしと雖へ共、給桑に對して三百九十尺坪（本邦の蠶座面積と大差なしと雖へ共）一日四回としたるに二回とし、バグダッド種は好成績を示し佛國原産のバール種は蠶兒病に於ける枝桑飼育法に優分けるが如き好結果を得なかつたけれども、枝桑飼育法に優分の改良を加ふれば前者と同樣なる成績を得るものと認む、例令ば除沙は各齡眠期の前後に上蔟前とし、五齡には感食期と上蔟前とに分つて行ふことと、蔟は歐洲の如く、蠶座の三回を出すも給桑を止ることなく、蔟は歐洲の如く、蠶座の一方より少しづゝ立てゝ、熟蠶の極次上蔟するに從ひ、蠶兒を蠶座の一方に寄せて蔟を增加せしむれば現在の如く未熟の蠶兒をして、强ひて結繭せしむるといふ弊なく繭質の佳良のものを得らるゝのである。

温度の劇變……軟化病の發生

現在同國に輸入せらるゝ蠶卵は母蛾檢査を行はないから、飼育中微絲子病の微候を現はすものが多く、蛾の三割は其は病毒を含有してをる、硬化病、軟化病、赤子病等の一種なる蠶室は桑畑内の小屋である為に消毒法は臭氣を發するけれども、家附することのできない缺點とある、けれども飼ほ消毒の有効なることを確め得た、軟化病は同育法及び蠶種の組惡であるばかりでなく、小屋を改良せなければ蔟夜の温度の劇變を防ぐことができないから、晴天續の年にも多く發生することがある。例令ば日中華氏八十七八度に達し、夜間六十度に降る場合は珍しくないといふことである。

波斯の蠶業は前途有望

要するに波斯の蠶業は今尚ほ幼稚の境遇に在るけれども、フォン氏が同國に於て採種し母蛾檢査を行ひ、なる無毒種を以て試育したるに五齡中桑樹に不足を告げ、豫定の給桑回數を減じて一日二回に止めたるに、倍額を收穫し、蠶兒は土民の藏庫内に委ねたのみ、拘らず、收穫量は百に對して十四以上を得た、桑樹は早く老衰するに、屑繭量最は生繭も全く無肥料なるも尚ほ能く一町歩の面積より四五十貫の繭を得べき桑を繁茂せしめ之に對する小作者の報酬は其三分の二であつて、生繭一貫の時價を四圓とするも百二十圓であつて、夫婦及び手助けとなり得べき男兒があれば、他人を雇ふ必要なく、地主は現在蠶種代に三箱分六圓を支拂ひ殘り九圓の純益は一町歩の桑畑の地代及びチリシバル貸付料として滿足するものである、農民として、合好き仕事であるから、地主にして改良を必要とする場合なるを信ずるときは同國生繭の生産地は年々千萬基即ち今日の倍額に達し、古代の盛況を恢復するは容易てなからう。（完）

三重支會が功績々表彰したる鞆田村蠶業の治績

三重支會が功績を表彰したる

鞆田村蠶業の治績

特別會員 三重縣技師 立野貫一

鞆田村の地勢……副業の奬勵

鞆田村は岡山郡の東北隅に位し、北は滋賀縣甲賀郡油日村に接し、東西六十五町南北三十八町六大字より成つて戸數五百五十五、人口三千四百九十二、田段反別四百六十二町五段八反十四町六段歩、山林三百二十七町八段歩、其他宅地原野等合計九百四十八町二段歩、總地價二十一萬八千四百二十歩の高低は、其土質に於て農民の一部蒸であるが、田地は全部水田地勢の高低は、其土質に於て農民の一部蒸であるが、田地は全部水田地なる結果米の收穫毎年優に一萬石以上を得るけれども經濟界の變化に伴ひて、勢ひ副業の發達せぬならぬとなり、種々の副業を奬勵したが就中蠶業は農家唯一の副業として大に奬勵したのである、明治二十三四年以降養蠶業を試みたる者多く、次第に減少し、終に之に冒險的事業の結果失敗に歸し、さへ用するやうになつた。

併し識者は斯業に苦心し其主手段として村適應の業となるを認めて之が改良發達に努力し、其年毎に蠶種を共同飼育場に送付し、毎年蠶業者の指導誘掖に努め、衛明治三十九、四十の兩年度には福島縣より蠶種を共同飼育場に送付して當

三重支會か功績を表彰したる桑園村蠶業の沿革

四十年	六	六	二	四〇	三〇	九七	四九	五	一三	七八	三八
四十二年	一五	七七	一一		一一	一六	七四	七五	二三	九二	五六
						九九	七一	〇	三五	八	九九

桑園村の蠶業は明治三十七年頃約十五六町歩であつたが村農會より桑園開墾地前木代金の奬勵金を交付した結果、年々増加して今日三十餘町歩に達したけれども尚斯業に就中施肥の増加、病害の驅除、種類の選擇等に計り開墾年山野を開墾し、桑園數町歩宛を增殖して目的である、本蠶は米作に影響を及ぼさゞる程度に止めて成績一千石(代價五萬圓)を得る豫定で目下專に秋蠶を飼育せしめ、成績は大石(代價五萬圓)を得る豫定で目下專に秋蠶を飼育せしめ、而して近來荒廢原野を開墾したものが四町七段餘歩植替をしたものが六町二段餘歩に上つて居る。

桑園村蠶業指導者 松下憲三郎氏

桑園村蠶業組合長 高島多兵衛氏

(蠶種)は從來他府縣より輸入し年々數百圓の代金を計上するのであるが今後若しも蠶業が豫定の如く發展したならば國に相當數三千枚以上を拂立るやうになるであらう、さすれば蠶種代金は二千一百圓に增進するのであるから該蠶種は當村農會で製造して當業者に配布し以て輸入を防ぐ計畫である。

品評會の開催

蠶業の改良發達を圖る爲三十八年第一回四十年第二回の品評會を開催したが四十一年に於ては桑園品評會を開催し專ら產繭の優良桑園の改善策を講じたのである。

木村の蠶業は農作物總園に於て今後豫定の發展を爲さしむる目的で第一養蠶家の增加第二桑園の大改良、夏秋蠶桑園の增殖、培養を圖り進んで昨秋以來經濟的種蠶共同飼育場及び種蠶共同桑園を設置し尙土地の枯質を利用して輕便的桑葉貯藏庫を各自當業者に特設せしめて、蠶業經營上遺憾なきやうに計畫してをる。

更に感ずべきは學校の養蠶

本村農常高等小學校では明治三十七年より農業科を同四十一年度より養蠶實習規定を設けて其の即ち春秋には

春蠶種蟻量二匁四分、夏期には夏期休業を利用して秋蠶種蟻量五匁を飼育せしめ四十二年度には春蠶種蟻量二匁を掃立て兒童の實習に供したのである其結果は多くの收益を得なかつたけれども、之が爲兒童に對し養蠶に關する智識を確實に習得せしめ得たのである今後本校の爲に養蠶實習の施行の手續を示せば次の如くである。

養蠶實習施行手續

第一條　本實習は本村農業の副業として最も適切なる養蠶の實際に付兒童に示教せんがために施設したるものにして農科理科等に於て授けたる智識を一層確實なしめ併せて之れに關する趣味を長じ斯業の奬勵に資するを以て目的とす

第二條　本施設に主任及び副主任を置き左の事項を取扱はしむ

一、蠶實に關する一切の事務
二、兒童作業の指揮監督
三、日誌の調製

第三條　本實習の手續を定むること左の如し

一、本實習は原本科兒童に課するものとす
但し場合により尋常科上級の兒童に對しては政作業に限り之を課することあるべし
二、作業は日々數名兒童に之れに從事せしむるものとす
三、作業は食間を除き農業科教授時間及始業前終業後日曜日等に於て之を課するものとす
但し場合に依り教科授業時間と雖も精い換へ之を課することあるべし

第四條　本施設により收穫したる利は課で之を兒童に報償貯金せしむるものとす

蠶實統一は思ふたより安い

繭質統一は思ふたより安い

農商務常會員
東京蠶業講習所技手　松下憲三郎

繭質統一の必要なることは既に蠶絲界の輿論で、委に嘆々するの要はないが、世間往々之が實行難を心配する人があるけれども、予は思ふたより樂外に容易な業であると思ふ、予は先年福島の奥羽六縣共進會と今回名古屋共進會とに官命を帶び繭の審査に從事し東北關東及關西各縣の產繭に就き精細審査するの機會を得た、凡そ蠶絲業の進歩發達の程度を一目の下に知るには其地方の產繭一場集めて品評するのが一番早道である、故に予は是等共進會に於て各府縣の出品繭に就て知り得たる事實に基き繭質統一に關する側面觀を試み以て實行の參考に供さうと思ふ。

關西府縣聯合共進會の成績は如何に……

關西でエキストラ格の生絲を製造する製絲家は澤山あるが其主なる地方は尾張、伊勢、丹波、伊豫、伯耆、出雲の地方であつて此の地方には中々原料繭の優良なるものを產出する果實優等絲が出來る主なる原因は原料繭の優良なるが故である、一言に云へば支なからうと思ふ、東北地方では山形地方は優等の原料繭を產する、其生產生絲も伸々優良で横濱

市場で羽前を冠したる製絲は殆んど優等格を占めて居る、今回の共進會で繭の品位が良好で且つ繭質統一の質とは略一致して居るのとは、京都、兵庫、愛知、三重、鳥取、島根の各地で恰かも優等絲の產地は繭質統一の質とは略一致して居る、俵、兵庫の繭は繭層が稍薄く減みがあるが、愛知、三重、鳥取、島根は繭形長過て居たのは其だ惜むべきことで、又鳥取、島根は繭形長さに失し、稍もすれば屑切れをなす氣味があるのみならず、繭層薄くして絲量も少いが絲が細くして良絲を製するに適して居る、京都、兵庫の種度稍太き減みがあつて是等は何も就いたものと云はねばならぬ、而して其結果は常に横濱市場で此地方產の生絲が常に優良の地位にあるを見れば蓋し思ひ半ばに過ぐるものがあらう、又之れと反對に繭が不良組織で且つ繭絲業發達の程度が極めて低いのは出品點數が少きのみならず、或る地方の如きは品質の不良なること、實に御話にならぬ、又或る地方の如きは品種の組織なること驚くに堪へた大なる繭は小なる繭の約二倍（容積に於て）繭の長さが一寸三分のものがあれば八分未滿のものもある、幅が六分以下もある圓形もあれば楕圓もある刷形もあれば胴締の極めて深きもの又極めて淺きものもある、三角形、不正形のものを悉く混有して居る出品があるに至つては實に驚くべき品質の組織なること、一種の繭質統一上の品位の優劣なるものと不良なるものとは到底一年や二年には成効するものではないが、常局者と先覺者の頭腦を第一着に改良し、あらゆる手數と方法を盡して繭質統一に關する質的方針を確定し次に養蠶家の頭腦を一般に改善し、夏に進んで適當なる方法により原種の製造配附をなす樣なことにしたならば繭質の改良統一は忽ちに行はれるであらうと思ふ、殊に繭の形質が地方的に區分せられ此繭は此地方、此繭は彼地方、彼繭の產であると云ふことが一見して明なるは如何に其處に針と見つる其地方に行はるゝ品種の系統如何が繭質上に影響するものであるかを判

地方的關係と統一難

繭質統一に就て地方的關係、即氣候風土の關係から統一難を唱へらるゝ諸士が多く、例へば、島根地方は概ね丈が太いとか、島根、鳥取地方は細いとか、英國、千葉、靜岡地方は繭が短大であるとか、北陸地方は小形であるとか云ふことで、予輩も亦常に此現象を認めては居るが、是れは其土地の氣候風土に適し更に關係しないではないが、寧ろ其地方に流行する品種の如何に大なる關係を有すること思ふ、何となく同じ繭形及繭質のものが東北にもあれば關東にもある、九州にも四國にもあるからである、又西ケ原の講習所で東北に行はるゝ伊達錦の繭が出來る、佐平又は飼ふも信州の小石丸を飼つても信州の繭形の青熟を飼つても京都の又昔を飼つても岡山の小石丸を飼つても、鳥取の伯州又を飼つても四國の青熟を飼育しても矢張原種の繭は同一のものが出來る又原種の蠶種で其生產繭が出來る又原種の蠶種で其生產繭が出來る又原種の蠶種で其生產繭が

あつても、是點丈は桑園の改良と飼育術の改良に俟たねばならぬ次第である。

之を要するに滿蚕の統一には原々種の製造配布と云ふことも、適當の方法によつて行はねばならぬことは無論必要のことであるが、先つ第一に各地方に於ける當局者の調査者と協力して蠶種製造者と養蠶者との間に協定を改良することに勉めたならば、從來の弊害は自然に消滅し、現在各地の產繭に就て事實が證明して居るであるまいか。

枠を喰つて團體の蠶糞を營る

赤き繭を紙にした懺悔話

他人の蠶を草紙にした懺悔話

中谷桑實

先生方が御研究になつた有益なる記事が、新聞雜誌澤山掲載されるから、吾輩は一つ眉の顰らぬやう……即ちその按摩代りとして、吾輩の經驗をしやうと『失敗は成功の基』との諺の譬に用ゐた古ひ文句が、其理は何時迄經つても其理で、實際長いこと蠶界に有爲轉變して居ると隨分種々の失敗もあつて、それが又經驗になることが多い。

吾輩が今茲にお話しやうと思ふ所謂桑取法の失敗談は、かつて筆を喰つた新聞や雜誌、または著書の中でも發表しやうかと思ふことも數々あつたが、何だか心羞しいやうな氣がして、勇に近づかうとも思はなかつた。

先年吾輩が養蠶教師となつて岐阜縣へ出張した時のことである。其郡は岐阜縣では最も搬入枚數も多く且つ古ひ養蠶の歷史を有つて居る郡にも拘らず、其蠶が下手で、飼育の種類も多く越前の今立郡や中井、波八尾邊で出來る、白蠶などが主であつた。即ち蠶が上手で、殊に白川村など、來た山中の農商務省の蠶業改良に目の覺めかゝつた時であつた。

八貫匁以上一割の給料

團體の所在地は郡で第二の繁華な町で、無論半農半商である。はあるが、郡內第一等養蠶の進んだ所といふのは奥州の沿海地だとか、當野流だとか云つて、七草書式に二枚、又は高山紙の流れを汲んだとか、駿遠紙の型だとか云つて別染の寸法などは非常に八釜しい講釋を云ひ、世事に長けない生若い教師などが來ると、一番反對に弄つて遣らうと云ふ惡い見の地方が多い處であつた。吾輩經驗の受持つた團體は二十一戶で掃立蠶種は全部平附で七十三枚、蠶量は二百六十匁以上あつたと記憶する。近在の村へ大分同僚も行つて居つたが、吾輩の團體は目抜きの場所だけに給料に對する契約律も高いといふので、地の團體は蠶量四匁五分に付正繭六貫以上を取得すれば其一割を與れるか、若しくば平附一枚の教授料が三圓といふのであつた。然るに吾輩の所は蠶量四匁に付繭八貫匁以上は平附一枚に四圓といふのであつた。是は始め團體契約に赴いた者が提案した所であつたが、併し先方の魂胆は一枚四圓の方を危んで八貫匁以上一割、五分と云ふことにして與れとのことであつた。吾輩は其上地には初めてのことで氣候風土の關係は知らぬが、併し蠶は屋內仕だから大した狂ひはあるまい、さすれば蠶量四匁で八貫匁も獲れぬやうな馬鹿なことはあるまい、假に最低の八貫匁宛としても七八五十六貫は貰へる、四圓五十錢宛に賣ると約二百五十圓、少し骨を折れば三百圓は樂だ哪と、早速に先方の云ふ通りに承諾を與へ、來た肉と黑肉とゴタ〳〵と先組代々の牡丹餅大の判を捺した團體員の契約書を受取つた。

名を全命では酒ばかり飲む

蠶種は團體の契約者から拵供した、吾が郷里たる信州伊那で產たものが七分通りを占めて居るから先づ安心である。

蠶量も平素五枚も六枚も掃いて居つた家を家內の手間や桑園や、家屋や飼育を考へて適度と認めるまで減少さしてあるのだから、之も亦安心だ、されど蠶量一匁は約一萬頭の蠶が居ると云ふやうなことが、初耳の先生達を集めて、共同催青や共同種蠶育をするのだから尋常大抵の骨折ではない。そこで大きな家を三間ばかり選んで種蠶所に當てやうとすると、彼家も此家も、候補に立たがる。前代だ中代だと云つて、團體員目が寄り合へば、ばかり飲む。分つて自家へ持ち込めば、御迎へ親だと云つて酒を買つたり餅を搗いたりする「そんな馬鹿な算似をせず蠶に專念になれ、蚕の給料を出して教師を聘して置いて吾輩を蠶飼に粗んだのか？」と世話をやくと、蠶は嫌がる氣はなくつて吾輩

放任育の反對論

通常會員　石田孫太郎

一、參遠地方放任育の現狀

養蠶の比較研究を思ひ立ちたる我輩は、歷史材料の集取旁々各地を巡遊して、關東州より東海道に見を轉じ、參遠地方に發つこゝろある放任育の現狀を表はしたり。蓋し此放任育なるものは甲州に於ける格飼ひより出でたる安樂育の進化したものて、主として遠州袋井附近の村落に行はれて居る一種の飼育法である、而して此育法が遠州袋井附近に多く行はれて居るのは、其主唱者たる戸倉忠兵衛君が袋井驛に事務を經營して居るからであらう、一體此育法廣義に於ける放任育（安樂育共）の現狀は、參遠地方、及び豆駿兩國に隨分盛んに行はれて居るので、參遠地方のみにても此育法によりて收めたる繭は四萬貫に上り、他の諸國の分をすればなくとも六十萬貫に達すと云ふことであるから、全國產繭額の三千五百萬貫に比して、優に六十分の一に及ぶ譯である、而して此育法は其地方の人々の盛んに歡迎する處となり年一年增加して行く處の實況を示せることは掩ふべからざる事實である、それから我輩能く實地に就て視察したるに蠶の發育は滅に宜しく、殊に盛ずべきは三人の家内にして蚕量二十匁以上飼育して繭を成ぜず、又蠶室としては其ガ不良なる處に於ても健全に發育して居たことである、尤も此不良なる場所にて發育するのは地方の氣象にも負ふ處大なるを疑はないが、兎に角事實を事實として擧げて置くのである。即ち參遠地方は放任育の實況は極めて隆々たるものて、天暮色見る人によりて異なりてあるから、我輩より三四箇月前に視察された處の東京講習所の田邊氏は如何に感じたか、未だ其說を聞かないからして不明であるが、仄かに聞く處によれば士族屋民は絲蘭育として優越なる地位にあることを認めたと云ふことと聞ふた、併し之は保證の限りではなくて、兎に角人據のことは所感何れにあるか不明として、我輩一個の觀察では隨分盛んなる且又好望なる未來を有すと思ふのである。而して假令未來は知數であるにもせよ、一個の飼育法を唱へて、茲に十餘年、既に全國總收穫高の六十分の一を保たしむるに至らしめた處の倉地君は、流石に一本丙務次官や國田文部次官の從兄弟たるを失はない。

二、轟々たる反對論

放任育は即ち放任蚕なるものに蠶を養せて飼育するものて、一餌に中は繭は全業、三日目より二餌迄は全部にて飼育し、三餌より條稍共に給桑するのであるが、此育法に就ては朝野反對論が盛んとして居る、而して其反對說も色々あるのて、謂は十人十色の有樣であるが、其出色のものを擧げて見ると、左の數項に歸着するやうである。

一、反對なるが故に反對するもの

二、論の大小の如かを恐れて反對するもの

三、蚕量少きを恐れて反對するもの

四、高等蚕病特に過ぎざる蚕を吐くとして反對するもの

五、蠶例の惡結に過ぎざる蚕を恐れて反對するもの

六、蠶の性質を野蠻的なりとして反對するもの

七、飼育法其者を以て古代的として反對するもの

等は其重なるものであるが、第一の反對なるが故に反對するのは、法律命令を發し得る官廳の意見としては有力であるが、理論としては一顧の價値もない、第七の古代的飼育云々も亦頗る論に値ひしないのであるが、第二以下第六に至る迄の五項目は、反對論として有力のものである。放任育にて出來たる繭は、果して繭の大小不揃ひにして製絲に堪へざる乎、絲量少きもの多なる乎、絲繊不良にして上等繊物に適せざる乎、蠶の病蔓延の恐れある乎、乃至蠶の性質を野蠻的なりとして一切を擧げて不良なりとするものである乎、而して此五項目の全部に當てはまれば無論のこと、假令一項目でも該當するとすれば、不良なる飼育法とは云はねばならぬ、思ふに此蠶々なる反對論は何人の口より出づるにもせよ十分立證し得ることであらうが、併し是に就ては具體的なる立證ふ聞くことの出來ないのは、我輩の寡聞かも知れぬが反對論者としては少しく用意の周到を缺いて居ると言はねばならぬ、我輩後學の爲に十分なる立證を得たいものである、是れ恐らく反對論者の責任であらう。

三、放任者流の聲言

前項には重なる反對論を擧げたことであるから、片手落のないやうに放任育者流の言ふことをも聞かねばならぬ、即ち彼等の言ふ處によれば

一、放任蚕の外殆んど蠶養を奬ぜず

二、桑作物と衝突ぜず

三、人夫を大に減じ

四、桑業界の利に反り

五、結果不良なるもの外滿枝に大小なし

六、絲量も非常に多し

七、絲に蠶例基結するの理なし知らず

八、學校就職所等の蠶種試驗貴其好なり

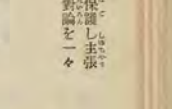
九、蠶を野蠻的に爲すを知らず、若し其然にあらば感謝に堪ずしてなきの有り

と云ふて居る、而して彼等が言ふ處の第一より第四迄は如何なる反對論者も承認せなければならぬ、處て、若之をも辯ずるが人あらば其人は未だ養蠶の何たるをも解せざる虛業家である、且又第九項の件は之も亦彼等が言ふ處の如くて、若し萬一野蠻的に爲すを知らずと云ふ恐れがあるとしたならば之は原種の方で如何樣にも出來る、況や原々種官營の說に有力なる今日に於ては殆んど憂慮する價値はないのみならず、其野蠻的になるかならぬかも斯道學者の研究に待たねばならぬ、ソコデ問題と爲るのは第五より第八に至る四項目て、一方は是と云ひ一方は非と云ふ以上は、互に立證の實任がある、而して放任育者流に於ては營業上の必要から種々の調査をして居るやうてあるが、一層明確に發表して反對論者に應戰する必要があらう、反對されても養蠶家は殖え、反對されても製絲家が高く

買つて行くと云ふが如きものでは、自己の育法を保護し主張する力が乏しい、之には完全無缺の證據を擧げ反對論を一々破らねばなるまい。

四、凱旋孰れの者を

今や戰爭間であるが、軍隊としては放任育者流は攻勢を取つて居るのと且つ經濟の點に於て有力なる勢ひを示して居る、凡ての不良なる點が悉く不良なる點に非ざれば放任育の方に缺を擁はれるのである。我輩は地方を視察して飼育經濟上の優點を認めた、此點に就ては到底普通育は及ばない、女一人で樂々と蟻量の七倍も飼ふことは放任育の大特徴の一である、左れば殘る處の問題は放任育者の第五より第八に至る四項の實否のみで、之が若し七分以上彼等の言ふ如くであり、反對論者之を破ぶることが出來なければ、遂に敗北せざるを得ない、而して其勝敗共に帝國の蠶業經營に大なる影響を及ぼすことであるから、其面目で無ければならぬ、我輩刮目して明確なる立證を見んと欲す、尤も我輩も相當なる機關を透して調査して居ることであるから、次第によりては嘗きよく彼等の軍門に降り、斯くて其育法の完成に努力するかも知れぬ、善を見て遷るに何の躊躇があらう、今は放任育も普通育も緊張一番すべき秋と信ずる、而して放任育反對者の論旨は(略)抽象的に陥るの又政略的なる傾きの見ゆるのは我輩の遺憾に堪へざる處である。



印度に於ける養蠶（前承）

學士院員
農學士　須田金之助

除沙は網を以て行ふのであるが其方法は敢て本邦と異なる所がなく、分蔟は除沙と同時に行ふ孵化當時の蠶兒は一箔で半分に足ると雖ども三十日間の後には漸次增大して略百倍となる、各服皮毎に前の面積に比して三倍の面積を要す、即ち孵化の時に半枚に飼育せるものが、一眠後は一枚半に擴ると云ふ順序である、尤も寒冷なる時候には三十枚が二十枚でも足りることがあるけれども、暖き時には壞き面積が良い樣である。

飼育中室内を潔除するに當り塵埃を散ぜざる樣注意せなければならない、故に掃除するに箒を用ひないで硫酸銅水か若くは石灰を少しく加へたる水を以て濡拭する方が良い、又石灰の粉末を、キャラコの袋に入れて之を常に準備し蠶兒の現出せる際之を取除きたる後に振り置くと云ふことも多少行はれて居る。

蠶兒の成熟せるものは蠶箔より摘去し之を「エピラ」に入るるのである、熟蠶を入れたる「エピラ」は一晝夜乃至二晝夜間太陽に曝露するのである、而して日光は斜に蠶兒に中る樣に大なる「ピラ」を立掛けて置く、長く日光の照射を受くれば、蠶兒を殺すの恐れがある、日光に當つると蠶兒は直に、結繭し始むると云ふて居る、結繭には暖期には二日間を要し、冷期には三四日を要すると云ふことである。現に余が蠶の經過せる際に二日目のものでも可成に結繭して居つたのである、熟蠶を入れたる「エピラ」は下向となして三四晝夜置くのである、然するときは屎を排泄して後に繭を汚染すると云ふことは少く、大抵三晝夜に置きて振り取り蠶箔の上に薄く横ゲ種繭は選別し、他の製絲用繭は一日三四時間宛、三四日間毎日太陽に曝露すれば殺蛹することが出來る。

種繭は十分に選擇して之を綿にて吊すのである。吊すには針と絲とを以て繭内の蛹を傷害することなき樣注意して繭の腹を貫穿して天井より吊すのである。而して其下の方には瓶を置き繭内に寄生し居る蛆の出でたるとき此内に落下する樣にする、製絲用繭を置きたる所に發生したる蛆も見當り次第捕殺する、暖期には八九日間冷期には十五日乃至二十日間を經過せば發蛾する、早朝に發蛾し交尾するものであるから午後二時若くは三時頃に雌雄の蛾を分離して産卵せしむるのである、製種法は嚴洲と同樣袋取製種と普通製種との二種ある、一般は普通製に由るもので其だ粗末なるものであるベンガル州には洲立の原種製造所があつて此處にて製造せるものは各養蠶家の希望者に配付して居る。

印度のマイソール地方にて飼育せる其經過を示せば左の如くである。

掃立は四月二十七日にして二十二夜六分の蟻蚕を飼育し一眠に就きたるは五月一日で六時に止桑をして居る。

二齡は五月二日に始まり五月五日午前六時に桑止をなした。

三齡は五月六日の午前六時に始まり十日の午前二時に終て居る。

四齡は五月十一日午前二時に始まり、十五日午後五時に終る。

五齡は五月十七日午前六時に始まり、二十七日に上蔟して居る。

溫度給桑量及給桑回數を擧ぐれば左の如くである。

	蠶齡	室内溫度 最高	室内溫度 最低	給桑量	給桑回數
一	齡	八十八度	八十四度	二貫八百二十匁	二十五回
二	齡	八十四度	七十九度	六貫四十匁	二十回
三	齡	八十三度	七十七度	十八貫七百五匁	二十三回
四	齡	八十三度	七十八度	十貫八百十匁	二十九回
五	齡	七十五度	七十五度	三百年貫六百十匁	二十九回
計			六百九十五貫二百六十五匁		百五十六回

收繭總額五十六貫〇九十八匁となりしと云ふ。

印度に於ける養蠶の方法も大體此の如きものである。（終）

傷害保險と共濟組合

法學博士　栗津清亮

法學大學を始め各私立大學の法學部として又各種保險會社の顧問として名聲嘖々たる栗津博士は今度傷害保險會社なるものを設立せらるゝと聞き一日麻布三崎町なる邸内ひしに博士には微笑み滿そて左の如く語られた

傷害保險とは如何なるものか

傷害保險のことですか、日本には各種の保險事業が行はれて居るけれども、傷害保險のやうなものは、私共の主唱以外にはマダ他に一つもございませぬ、文明の今日この種の保險の設けられぬは照代の一缺陥と考へ之が設立を思ひ立ちまして一昨年五月その筋へ創立認可の申請を致しましたが、何分今迄に類例のないのであるから、主務省に於ても充分調査を要するものと見え未だ認可はいたしませぬけれども近い内には認可をせらるゝことゝ思つて居ります。

この保險を分ちて當分の内普通傷害保險及旅行傷害保險の二つに区別しました前者は被保險者が日常起居動作の間に起る外來の事變の爲に身體内外の損傷を被り、之が爲に死亡するとか、不具廢疾になるとか、或は治療を要する場合に契約金額の全部若しくはその一部或は治療を支拂ふやうにするのであります。後者は旅行中に乘つて居つた汽車、電車、馬車、船等の交通機關が衝突、顚覆、爆裂破損その他の事變に遭遇した爲に死亡するとか、不具廢疾になるとか又は治療をせねばならぬやうなことになつた場合に前同樣契約金の全部若しくはその一部或は何割何分の額を支拂ふことにいたすのであります、ソコで普通傷害保險に於ける被保險者の危險程度はその職業に依つて定めねばならぬ關係から被保險者の從事する職業に據つて之を六階級に區別し、その保險金額を第一級、第二級及第三級は金三百圓以上金一萬圓以下、第四級、第五級及第六級は保險金百圓以上千圓以下の範圍に限定し、又旅行傷害保險料は千圓に對して拾圓以上五拾圓までと定め、又旅行傷害保險料は常分その區域を鐵道線に限定してその保險金を千圓以上一萬圓以下保險料は一ケ年千圓に對して僅に壹圓二拾錢と定める積りであります、ソーしてその被保險者の年齢は契約當時の年齢を普通傷害保險では九年七ケ月以上、六十五年七ケ月未滿に限るやうにしやうと思ひます。

一體この傷害保險といふのは今から五十年前に英國で傷害保險業を開いたのがソモ〳〵の始めであります、英國では之を「アクシデント、インシュランス、米國では之を「カジュアルチーインシュランス」竭逸では之を「ウスフアル、フエルジツヘルンク」と云ひます、この會社が澤山あります、鐵道、鑛山、航海の業務並に諸般の工業に事業として職業上危險の恐れを抱く者は勿論一般の人士でも途中の安全を謀り日常の災厄を氣遣ふ者は皆挙ふて之が保險契約をする有樣でありますが我邦に於ても將來この種の會社は必ず發達するやうになるでありませうから鐵道業に從事せらるゝ方の如きは大に之を利用するやうにせられたならば宜しからうと思ひます。

鐘淵紡績會社と共濟組合

傷害保險に於ては只今の處身體内外の損傷以外の保險はいたしませぬ、成程仰の如く製絲工女などは他の工業とは違つて比較的安全であるから損傷に對する保險金を掛けて若しも怪我過ちの場合には損金を只拾つるやうな思ひがするとか詰らんといふ考へを起すかも知れませぬが、併し吾々が日々の新聞紙に就て負傷等に關する統計を調べてみると隨分澤山負傷者があるものであります。

法學博士　栗津清亮氏

まして當に工女計りではない平素墨の上に慮つて怪我などしさうでない人なんどが怪我をしてをりますから、眞に我身の安全を希ふ人ならば矢張りこの保險の必要を認めるやうであらうと信じます……左樣傷害の外に貯蓄を加味して損傷のない場合には十年とか二十年の後に掛金額に相當する金額を補償するやうなことにしたいと思ひます、日本現在の法律ではドーもなしかねるのです。……イヤ現在の法律では絶對的に出來ないといふのではありませぬ、兎角主務省邊の考へは極めて法律を厳格に解釋して何んの角のと理窟をつけて許可せぬ方針を取るからであります、併し之といふも畢竟多くの保險會社が惡重役などの爲に失敗して社會に弊害を流した結果であるから所謂自業自得で止むを得んのであります、實際能く考へてみれば普通の人ならば兎に角勞働者を相手に永い間搾込ませてその會社が失敗するやうなことでもあつたならば甚だ気の毒なことでもあり、又政府としてもその責任が甚だ重いことであるから可成この種の保險會社に對して、その創立を許可せぬ方針を取るのも決して無理からぬことゝ考へます、故に當分傷害保險の外には手を延ばさず積りてゝが

工女に貯蓄させたいといふ意味で保險を附けさせるならば先づ普通の生命保險より外にありますまい、尤も普通の生命保險となると勞働者が悉く積保險人となり得ぬ關係もあるから、銀行の新積會社などと會社とを設けて會社の方でも幾多の補助を爲し、工男、工女に毎日幾らかづゝの拠金を爲さしめ、或年限の間貯蓄しむる方法を講じておきますが、是等の方法はドチラかといへば工男、工女の爲めといふよりは寧ろ會社自身の爲めといふが適評で、といふのは御承知の如く近年各種の工業が發達して段々勞働者が缺乏する樣な譯ですから、何とか彼等に落付いて能く働かしむる方法を講ぜねばならぬことに除義なくされた結果が共濟組合といふやうなものを產み出したのであります。

製絲工女にも勸めたきは……共濟組合……傷害保險？

日本に於ては勞働者保護といふ問題はマダ餘りに重きを置かれてないやうですけれど、歐米各國に於ては勞働保險やあるも共濟組合のやうなものを組織して夫に勞働者の爲に國費をつて居ります、……只今の御話によりますと製絲工女の如きも非常に不足して爲に爭奪誘拐等の惡手段が行はるゝとのことであるから各製絲家も自衛の策として共濟組合の如きものを組織しては如何のものですか、又怪我過ちが惧いとした所で工女をして傷害保險のやうなものに加入せしめてその身の安全を計らしむるのは工場主の責任ではありますまいか殊に工女に對する保險料は至て安いから業主が負擔しても大したことはない例へば保險金百圓に對して一ヶ年五拾錢も掛けたらよからうと思います、尤も傷害等の禍は男工女の工女のやうなものに割合に多いといふに過ぎないので一般の人々と雖も何時如何なる苦痛に襲はれぬとも限りませぬから勿論の善後の策を講じ急々の場合に臨んで狼狽せぬやうにするのは思慮ある人の爲すべきことではありますまいか。

本篇は去一日突然山川氏を横濱正金銀行に訪ふて聞きたる談話の一節なり

正金銀行と製絲資金

正金銀行巴支店人　山川勇木

正金銀行から貸出す製絲資金は一ヶ年に幾何？

現今に於ける金融は依然として緩慢であります、之は獨り横濱のみではなく全國一般に同じいことであるから、何れの銀行も業者も慎かなものに對しては資金の供給を惜び處ではない、否進んで之を供給したいと皆思つて居る位です、故に製絲資金の如き非常に潤澤であります、併し地方の銀行に於も資金が多いから製絲家の之に依て調達する金額は自然に增加し、其結果横濱に向て要求しに來る金額は前年よりは幾分減もは致しますまいか……左樣本年の分はマダ判りません

せぬが年〳〵正金銀行から製絲資金として貸出す金額は約四百萬圓前後です、勿論之は製絲資金であるといつて貸出すのであるけれども、實際其全部が製絲資金のみへ活用せられて居るかドーかは確と判りません、といふのは製絲家に直接貸出すのではなくて、地方の銀行か或は生絲問屋に貸出すのであるから、其行先きで正確に見定めるまでは出來ぬ、なれど弊行では、先づ其全部が製絲資金に使用されて居ると認めます。

横濱正金銀行

巴支店人　山川勇木氏

資金の回收は意外に良好

問屋の方へ貸出す時期は大抵今頃からであります、ツマリ製絲家が原料繭の買入れに要する金を問屋の手を經て借りるのであります、毎年此新繭時期になると澤山な資金が動き出すのですが、此放資金の回收は普通十一、十二月の頃でありまして、翌年に越渡つて回收する金額は僅少なのです、製絲家が失敗した場合には遂に回收せぬこともありますけれども、併し夫れはツー澤山ありません、殊に私の感心して居るのは、一箇年來大分製絲家が失敗して居るが、で資金の回收はドーかと思つて居りましたに、存外銀行の迷惑は少なかつたのです、銀行に迷惑を掛けて置いては今後に差支へるといふ考へから、無理算段をしてでも返へした人があるかも知られぬが、察する處、問屋の内には大分懷ろを傷めて居る者もあるでせう。

製絲資金は特別の取扱

弊行は御承知の如く蠶絲業には特別の關係があるのですから成る可く融通の出來る丈け融通する方針であります、がさりとて問屋とは違ひ、全國に於ける製絲家の信用程度を一々調査して貸すといふ譯にも至りませんから、製絲家の相手は地方銀行又は問屋に一任して、弊行は地方銀行と問屋を相手に貸出して居ります、故に製絲家が如何に失敗するも、直接弊行に關係はないけれども、併し製絲家が失敗して問屋又は地方銀行でも實際困つて居る場合には何か特別の取扱ひをするやうにしてもいます。

問屋へ貸出すか、直接製絲家へ貸出すか、格別變つた事もありませんが、併し製絲家の振出した手形を擔保に取つて貸す場合と、不動產若

くは有價證券を擔保に取つて貸す場合と、今一つは何も擔保を取らずに所謂信用貸をする場合との三種あります、此三種の中何れの方法で貸出すのが一番多いかといふのですか、サー夫れは、其蠶(ヤ)種に依つて一樣であるまいかと思ふのです、サーせば、普通擔保を取つて貸す場合が多いやうですけれども利子は他の者よりは一二厘方安くして只今では日歩一錢五厘から一錢七厘位の間で貸してをります。

製絲に關する取引にはモット利子を安くもしたいが、餘程慥かな擔保を提供して其返濟期限が短くてもなければ日歩一錢三二厘位にする譯けに參りませんね。

先賣の失敗……千秋の恨事

製絲業に就て吾々の遺憾と思ふのは彼の先賣といふことがある、此先賣といふことは行はれ始めたのは大分昔からのことで吾々は隆作ら殺んだが、此蠶の先賣は悉く失敗に歸した爲に其後少しは先賣する人がないでもないけれども、先づ今日では更に行はれないといつて良い位である、此先賣が始終行はれたならば(製絲事業者の危險の程度)更に大に減少するだけの出來、吾々(銀行業者)が放資する上にも亦安心が出來る譯けであるから、銀行(製絲家)のみの要求ではなかつたのですが實に千秋の恨事であります。

製絲業は絶へず其一盛一衰に注目するとともに、出來る丈け(界)に在る者は、國產業界の大宗であるから、吾々(銀行)の使命は常業者諸君に與へたいと思つてをることであります。

諸氏は可成新業の基礎を安全にして經營し得るやう一段の工夫を凝らされんことを希望するのであります。

製絲資金と釜數

第一銀行横濱支店長　石井健吾

本編は石井氏が編者に語られた講演を綴りたるものなり時節柄製絲家の一讀を望む

金融は依然として緩慢

當市に於ける金融の狀況ですか、大勢は矢張緩慢ですな、併し不景氣の程度は、稍〻前に比べて幾分か恢復の緒に就くやうですから、久しく沈滯した金融界も次第に活氣を帶びて來ました。

何れの銀行家も、金融緩慢の結果、潤澤なる資金を抱いて放資の途なきに苦んでをるやうですから、製絲資金の如き容易に融通せられ得ること、思ひます、併し是迄の經驗に據ると、製絲資金の豐富は却て製絲家を禍ひするとも來ひする、夫れは說明するまでもなく資金やうな資金は、決して無いことになるが、製絲工場も矢張之れと同じやうな關係がありますせいか、或程度迄は釜數を增しても增せば增した丈けの効果はあらうが、其程度を越えたならば、危險の程度を增加するの反對に危險の程度を增すの結果を來すやうになるのです、絲價の騰落は、遂には算盤の如きも及ぶと報酬逓減の規則に支配せられて、遂には故良の効果が更に

蔬るが爲に春秋二期に於て僅に二週間か三週間の間に一ヶ年中繰糸する原料を仕入るゝのであるから、之に投ずる資金は決して掛くないのであります、此資金は釜數の增加に伴ふて段々多くを要するから危險の程度は段々增すのである、換言すれば利益も大きいが損害する害が一層に大きいのです、此損害が一時に何百圓といふ巨額に達し、如何に救濟策を講じても遂に救濟し得ずして其一度倒れて仕舞ふ製絲家が決して勝くない、故に製絲業の大規模經營の利害得失は目下の攻究問題に して概言すれば程他さ程度の經營は其宜しきを得たるものと信ずるのであります。

小規模經營は何んで見殺にせぬか

要するに小規模の經營であればよし失敗したところで其損害が高が掛いから銀行でも問屋でも復活復せしむるの餘地を見出し得るが故に見殺しにするやうなことはしない、何んとか救濟の方法を講じて遣るから、一敗地に塗れて再び起たれぬといふ悲慘を見ることは滅いのであります、故に吾々の考へでは一百釜位が相當で多くて三百釜と思ふのですが、尙世には製絲業をトラスト的に經營し以て製品の統一をせねばならぬと論議もあることであるから、此點に就ては大に攻究せられたいと思ふ、吾々の考へでは小規模に經營したところで決して製品の統一の出來ぬとは思はぬ、彼の上州南三郡の如きは既に吾人に好個の模範を示して居るのであります、徒に大金を投じて多額の資金を問屋や銀行から引出し多大なる損失の危險を犯すことは最も敬考を要するとであると信ずるのであります。

蠶界未曾有の大計畫

原蚕調製絲所長　大久保佐一

横濱の豪商原富太郎氏如何に熱心、問題に熱心なるか知らんと欲ては名古屋及富岡に於ける蚕製絲所の活動に倣りて之を知れ而して蚕製絲所の活動か知らんと欲せば請ふ本篇を讀み本篇は其に之の蚕製絲所に在りて敢腕を振ひ近時其名を噴々たる大久保氏の直筆である

名古屋製絲所の活動……本家の伯州御株を取らる

明治三十六年四月に愛知縣の原名古屋製絲所が伯州の山陰製絲所から、始めて伯州又背の桑製蠶種を二枚原用として買ひ受けて來て、一枚を滋賀縣に遣いて雨縣で試驗飼育をした、是れが抑も愛知縣で伯州又背の飼育を試みた發端であります、此年同製絲所は人を伯州へ派遣して觀察し研究し、十分の調査を遂げた結果、東伯耆蠶種を改良會へ製絲用蠶種を三千枚注文して、これを愛知縣下一般の養蠶家に無賃配付（一部に向かつて代金を微少たるが何れも實費）をして、同中は絕へず松田、藤波兩名の養蠶教授員を派遣し飼育方法を監督しながら、各地の蠶家に教授せしめました、翌三十七年には更に同蠶種五千枚を配付せ、養蠶家に四千枚、製絲家に一千枚の配付をなし、此結果は原種を伯州に需めずして、愛知縣に於て供給し得るに至りたので、翌三十八年には此度製蠶種を一般養蠶家に飼育せしめた處成績は非常に好成績であつたが、何分形狀が稍々小さいが故に失望の感があつたので、同所は更に製種と密接の關係をして、色々と苦心し研究を重ね、原種を矢はぬ樣に漸次短小の中庸を得さする樣に、減は掛け合せをして定した良蠶種を得た爲に、從來賣の佳くない蠶種が政感して居たのを殆んど廢滅したと云つてもよいのです、兩家引續き同所が此蠶種の普及に努めたので今日愛知縣では本家の伯州のお株を取つて、寧ろより以上優良な蠶種を製造して、却て他府縣へ供給する樣になりました、是はよ先き同所では蠶種配付の效果を收めつゝある間に、一方では蠶業組合の設立を勸誘すべく、所謂及恵回員設置を始めとし、遂に此に蠶業組合の列を設き廻はらせた結果、蠶業家は漸次共同組織をするやうになりましたが、今日では、非常に激增して組合組織に這入らぬ養蠶家は滅に稀なるのであります、抑こゝ云ふ風であるから愛知縣下尾張一圓の成績は現在事實に於て統一されてをると云つて少しも差支へはない、それで成績取引は大概蠶業組合の共同販賣で行はれる樣になつてをるから、今後も必ず蠶質統一の軌道を外さず、益々優良の成績となる事は何等の疑を要せざる次第であらうと思ひます。

多摩川附近の景　　蠶鬼　暗闇の蠶

蠶種の配布七千餘枚

群馬縣では三十九年五月六日大霜害があつた爲に催青中の蠶種を放棄したり蠶兒を遺失するやうになつたので、富岡製絲所から同所が選場地方へ配付すべく用意してあつた桑製特選蠶種を八百枚宛分割を受け、一般養蠶家に無償配付を試みたのがソモ〳〵の始まりであります、ト コロデ成績が良好であつたから引續き製造して、今年度に二千五百枚の配付を行ひ、其成績は三十九年度に二千二百枚四十一年度に二千二百枚四十二年度に二千二百枚の配付をしてあります、

致しそうした、ソウして同種及同種類似の成繭に對しては他んで統一的に買入れをしたので同所が購入する成繭は年と共に雑駁を避け得らるゝ様になって來ました。蠶業の発達地である群馬では後進の愛知で見た様な迅速なる質績は期待出來ないからね、ソコで四十二年度には同種の蔵に放ひ、寄せ養蠶家に対して飼養家へも配付をして愛知蚕の注目を惹く様になって來ました。四十二年には春蠶當時既に同種の配付を取扱ひ、蠶業組合と云ふ名称で十分に蠶業に関心しつゝあった蠶業者は、一層飛躍し、一般に良蠶種の選擇に関心しつゝあった蠶業者は、一層痛切なる感じを抱き、丁度某天に雨を望むやうに理想的蠶種の現出を希望するやうになりました。ソコへ原富岡製絲所の配付蠶種が比較的の優良であると云ふ評判が高くなったから、第一高山社は大決断を以て同種に依り一般社員に供給する原種を得べき蔵育收穫の配付を受けソウして、前年來同種の復製をしたる富岡系のある多野郡の順氣ある蠶種家は果って同種の分配を受けさして事に馬鹿の有力なる蔵種家は蠶業固になって富岡系の蠶種の復製を以て蠶種の申込が來る斯ふなる事情から、前年來同種の復製をしたる

か、又た一方に於ては綿糸又は廣東絹を綿糸として用ひらるる中等織物は其價が割合に廉價なるを以て、廣く需用者に行き渡るの便利がある爲めに其の需用せられたる織物の量に於ては蓋し甚だ大なるものあるべきであらう、即ち日本生絲の昨年に於ける相場は概して低價なりしも、其輸出數量に於ては實に著しく増加して横濱開港以來未曾有の量に達せるを見ても知らるゝのである、現に米國ニューイングランド諸州の木綿織物業者は絹綿交織用の爲め多大の生絲を購入しつゝあるを以て生絲輸入業者は之れが爲めに新たなる顧主を得たりと云ふ、而して從來木綿織に於てのみ使用したる織用の（機織用）絹糸は今日に於て新たに絹綿交織の用に供せられ、尚ほ此の外に絹織物の（機織用）絹糸の需要は益々増加せんとする實況なりと云ふが如きは偶々以て絹綿交織の流行は延いて將來に於ける絹織物の需及び上に至大の利益を與へたるものと言はねばならぬ、何となれば一たび絹綿交織を使用したるものは自然の趨勢として（純絹織物）を希望するに至るは當然である、去りながら茲に我々の最も注意すべき事は米國の絹業者が夫の廣東生絲に深く注意を拂ふに至りし事である、現に米國絹業者は一時年々一定の同會の決議を以て廣東製絲業者に向つて其の改良を促ふしつゝ居るが、果して絹業協會が希望せる如く廣東製絲家が奮て改良に着手するや否やは知る事は出來ないが、米國絹業者は其の果して改良を行なる注意費を惜まず、之れは其に少數に過ぎずして、多くは禮物、裝飾用織物、繊地等に用ひられ、又た近來は壁紙の代用にも用ひられ、而して此輸入が果して純絹製品に幾何の影響あるやを云へ事なる當業者に問ふも、當業者は異口同音に何等の影響なしと斷言して深く之れに掛念せぬものゝ樣である。

第七　米國に於ける各國輸入生絲の用途

其の用途は種々には衣服地の經糸若くは緯糸として用ひらるるものなるが、之れは其に少數に過ぎずして、多くは知る事は出來ないが、米國絹業者は其の果して改良に着手するや否やは知る事は出來ない、米國絹業者は其の果して改良を行なふに於ては必ず夫れ相當の報酬を與へざるべからざるものは絹糸若くは緯糸等に使用せらるゝのが普通である故賢利に敏、水邦の人は此の報酬を必ず、改良に着手するであらう、水邦の人は此の報酬を必ず、改良に着手する此見地に依りて之を列擧すれば全國は西一番目に日本の生絲に相當し、其六割以上は日本の飛切上の格付であると推察せらるゝから普經糸として使用せらるゝのと見て宜しからう、歐洲絲糸に伊太利絲は最も飛切上なるもの、其他絹糸は強伸力に富むもの、上等廣幅織物の表布の裏布の面布等の如き其他優等織物用の經糸には專らこれを使用して居る。

支那燕京織絲は其最良なるものは伊太利のフリッシュル、ヒ相匹敵して日本の飛切上に優るとも劣ることはないといふのである。然れども其並物に在りては枠角の固く着し其他の缺點あるから、微して評判宜しくない、去りながら支那燕京織絲は其良否共に米國に輸入するものは經糸に供せらるゝものゝやうである、孫に其價格比較的低廉であるから之を需用するものが多い。昨年の知らるゝ二十一中より十七中迄の上等の生絲を輸入し、歐洲生絲の代用として一本經として使用せらるゝものは極太の生絲を製造して其度十七中より二十一中迄の上等の生絲を輸入し、歐洲生絲の代用として一本經として使用せらるる當業者は深く此等の點に注意せねばならぬ。

又た茲に一言するを要するは米國に於ける人造絹糸の輸入である、米國にては絹業業内書に據れば人造絹糸の製造所が「ニューヨーク」市に二箇所（Beatlelds m.fg.Co; Atlantic Filmo Co.）オハヨー州に一箇所（Cleveland Art. Lisk Co.）ペンシルヴァニヤ州に一箇所（Gonasso Silk Works; Art Filmo Co.）存在せるが如く記載せらるゝも、子は不幸にして其の現場を觀るの機會を得なかつた、併しながら聞く所に依れば此等の製造所は未だ實際其業に從事して居ない樣である、既に人造絹絲を使用しつゝある米國の機業家と雖も未だ米國製造の人造絹糸の有ることは殆んど知られざるが如く、現に今米國へ輸入せられつゝある人造絹糸は全部獨逸、佛、墨の三國より來れるものであつて其の最も近數年間に輸入したる數量は左の通りである、前に掲げたる米國への輸入生絲及び價額は此の人造絹糸の輸入量をも包含す）

年次	種類	數量	價額
千九百九年	一〇〇二二九八九	封度 九二三六六七	一四二七二六三 弗
千九百八年	一〇〇二二九八九	九二三六六七	一二八九五三
千九百七年	一〇〇二二九八九	九〇七一九八二	一三一三一三六
千九百六年	一〇〇二二九八九	七八〇九二三	一三九八六三八
千九百五年	一〇〇二二九八九	五一九〇四一	一一二四三七八六
千九百四年	一〇〇二二九八九	三六〇六〇七	一一二五五六五
千九百三年	一〇〇二二九八九	三六六四七	七八八三九九
千九百二年	一〇〇二二九八九	二一四七八一	四五九三五三

右に依れば人造絹糸の米國への輸入は年々增加し、而して

既に述べたやうに、現今米國へ生絲を輸入するのは主として日本、支那、伊太利、佛蘭西、及ベンガル地方で此等の諸國の生絲は其品質に於て各一長一短であるから、其用途も亦た勿論同一でないが、特に織物界の流行に連れて此用途は絶へず變遷するから、今一概に斷言することは頗る困難の事であるけれども其大體より之を觀察する時は品質の優劣等は常に經糸に使用せられ、然

日露戰役中清國紫禁城の兵士　岡山城

特に極太の生絲を製造して其度十七中より二十一中迄の上等の生絲を輸入し、歐洲生絲の代用として一本經として使用

せられたるものも少くないと云ふことである、又た七里絲は殆んど全部絹絲に使用せられ、其評列は近來其改良と共に宜しくなつたやうである、此七里絲の代用として「日本產絹絲」を用ゆる事もかなり少なくないが、昨年の如きは七里絲の價が大に安かつたの力勢もあり、絹絲製造家は盛に之を使用し爲めに我が產絹絲の需用は減じたとする傾向がある。

支那廣東器絹絲は一度拵返をなしたる飛切以上の物は廣幅織物の緯絲若くは絹綿交織又は絹毛交織の緯絲として使用せられ、其他絹絲用又は天鵞絨絹等に用ひられ、又た上州產絹絲絲の低廉とに依つて其上に增加し、而して其用途は婦人子の衣服及び男子の座除け用の外套等に使用せられ、絹絲共に桑蠶絲を用ゆるものの綿絲の交織をなすもの、又は玉絲と併せて使用するもの等ありて流行は頗る盛んなるものである、爲め殆んど他に至つた、年昨の輸出して來れるものは、支那より直接に來たれるものに比ぶれは、其再繰は頗る困難で屑絲を生ずること多い、而も歐洲より再繰して來たるものに於て一たび整理を加へたるものであるから、支那より直接に來たれるものに比ぶれは、其再繰も稍やや良好である。

支那の桑蠶絲は、支那國に於ける絹物界流行の變遷と價格の變化に依つて其用途は婦人子の衣服及び男子の座除け用の外套等に使用せられ、絹絲共に桑蠶絲を用ゆるものの綿絲の交織をなすもの、又は玉絲と併せて使用するもの等ありて流行は頗る盛んなるものである、爲め殆んど他に至つた、年昨の輸出して來れるものは、支那より再繰は頗る困難で屑絲を生ずること多い、而も歐洲より再繰して來たるものに於て一たび整理を加へたるものであるから、支那より直接に來たれるものに比ぶれは、其再繰も稍やや良好である。

支那廣東器絹絲は絹綿交織又は絹毛交織の緯絲として使用せられ、其他絹絲用又は天鵞絨絹等に用ひられ、又た上州產絹絲絲の低廉とに依つて其上に增加し、而して其用途は婦人子の衣服及び男子の座除け用の外套等に使用せられ、絹絲共に桑蠶絲を用ゆるものの綿絲の交織をなすもの、又は玉絲と併せて使用するもの等ありて流行は頗る盛んなるものである、爲め殆んど他に至つた、年昨の輸出して來れるものは、支那より再繰は頗る困難で屑絲を生ずること多い、而も歐洲より再繰して來たるものに於て一たび整理を加へたるものであるから、支那より直接に來たれるものに比ぶれは、其再繰も稍やや良好である。

支那の桑蠶絲は、支那國に於ける絹物界流行の變遷と價格の變化に依つて其用途は婦人子の衣服及び男子の座除け用の外套等に使用せられ、絹絲共に桑蠶絲を用ゆるものの綿絲の交織をなすもの、又は玉絲と併せて使用するもの等ありて流行は頗る盛んなるものである、爲め殆んど他に至つた、年昨の輸出して來れるものは、支那より再繰は頗る困難で屑絲を生ずること多い、而も歐洲より再繰して來たるものに於て一たび整理を加へたるものであるから、支那より直接に來たれるものに比ぶれは、其再繰も稍やや良好である。

今米國に輸入せらるゝ日本生絲の內其經絲絲絲に供せらるる、其性質上日本生絲の內其經絲絲絲に供せらるる、其性質上日本生絲の內其經絲絲絲に供せらるる、其性質上

はゴ帶を締さんが爲め、其原料（ひまわり）の切格の需要を喚起するに至るべきは明かである。

歐洲絲と日本絲とは、各一得一失である、日本絲の極上等物の如きは織通織物用として歐洲物に對し殆んど遜色がないけれども、日本絲の劣れるは歐洲絲に及ばざる點が一つある、他なし日本絲の如く一本絲用に適せざること是れである。

伊太利絲の如きは十五、十七中（パタソン）にて三十一中の一本絲を以て襟飾地を織立てつゝあるを見たり）等の生絲を據ると雖も直ちに之を機臺に掛ることを得る一之は主として布織物に用ゆ）から、其手數を省き得ること大に目つ簡地を織るに便利であるから、廉なる生絲の需要は頗る多い、日本の生絲にして若し一本絲に使用せらるる迄に改良したならば、其需要は頗る大きいであらう、併しながら、目今の處未だ其使用に供ゆるものの甚だ稀れであつて只カ僅か山形、三重若くは愛媛縣等より産する優等生絲の二三が近時漸く此の目的に向つて使用せられとするの傾あるが如きは頗る喜ぶべきことである、其數は極めて少ないの故に改良の程は特に遅々たるけれども、其原因に至りては今茲に斷言し難けれども、其一は各の不堅固なること、其二は度の不揃なる事、其三は繭の在せる事等よりして其強伸力の不充分なるもの實に之れが最大原因であらう（未完）

關西製絲界の重鎮

木佐德三郎君

編者

傳習所を起し組合を組織す

君は嘉永六年六月六日出雲國飯石郡川部出東村に生る、資性穎敏にして風に大器の象を示す、明治二年始めて民政局より貢院取引申付られて以來公私の事に司長たること殆ど數年に遂ぶにして、事の改良に意を傾けたるは實に明治二十年なり、君久しく山陰の蠶事太だ振はざるを慨し、縣廳に納ひて教師を招聘し、年々幾多の生徒を募り自ら先じて之が訓育養成に力め、其卒業の門より出て北陸地方蠶業及種製造法を傳習せし者頗る多く、從て蠶業の爲に功を獻じつゝある有爲の技術者は實に明治の初年を迎うて先進地の識を摩するに至れるもの亦此因に基かずんばあるべからず。

君夏に蠶種製造の幼稚にして見るに足るものなきを慨り三十三年に新に蠶種改良組合を組織し、自ら營理せる平田製絲場を主宰とし、一定の蠶種を組合員に頒布して各々之を飼育せしめ、其成繭可良なるものを買入れ、專ら優等絲の製出に力むると同時に一方良種の製造に意を致し、其製出したるものは之を地方養蚕家に配布して飼育せしめ、連年好果を收めたりき。

平田製絲場を新設す

久しく製絲法の傳習に心を盡くせし君は自ら實際に之を試みんと欲し明治二十六年六月平田製絲場を設立し、器械五十釜を据付け教師を三重縣三重郡四郷村室山製絲場より聘し範を遠近に示せり、幸にして業務序を得て年を追ひ、之を擴張せざるべからざるの順地に向ひ、三十三年五月には二百一釜に增加し、三十五年平田協會名を改名して平田南合資會社と改名し、總釜數二百五十一釜を以て事業の進歩を企たり、三十七年には更に之を增加して二百七十六釜とし爾來幾多の改良創新を加へて今や國西製絲界の重鎮として立つに至れり。

稚蠶共同飼育所の設置

君の製絲改良の一手段として蠶種改良の要あるを認むるや平田長絲場に蠶試驗所を設け養蠶及原種の製造を試み、之を地方人士に分育せしめ、新に稚蠶共同飼育所を設け教師を聘し、百反に付き三十圓の助金を與へ、成繭は凡べて會社之を買取り、時々品評會を開催して成繭の批評を爲し、之に一等四圓、二等三圓、三等二圓、四等一圓、五等五拾錢の賞金を與へて改良を促せり、飼育所を利用するもの年一年激增し、明治四十二年の如きは簇川大原二郡のみて八十ケ所、掃立蟻量二十四貫八十二匁、收繭四萬五千八百餘貫の多額に上れり、而して之に對して君が出捐せる總補助金を算ればこれ實に四千八百餘圓に達す、君が斯業の爲に私財を投ぜるもの、亦決して尠しとしふべからざるなり。

原蠶種の設立に巨財を投じて縣蠶業の興隆を圖る

明治三十七年十二月島根縣が其原蠶種製造所を君が居住平田町に建設んとするや、君敢て其建築物を負擔し、巨額の私財を投じて壯麗なる建物となし、之を縣蠶業振興の爲め、特に縣に貸與することゝせり、君が公共の利益の爲に資を投じ勞を厭はざるもの眞に數の事に勝すといふべし。

原蠶種の製造は著々效を擧げ來りて年々事務を擴張し、遂に建物を增築せざるべからざるに至れるに君又喜て之が建築を負擔し喜て之が增築の工事を督勵せり、建築の爲に其財を

改良又昔の創製

君が幸先原蠶製造所の建設に伴ひ、蠶種は在来の甚だ雑駁にして、絲一せるものなく、殆んど製絲上に及す影響少からざるものあり、君は此に同

接続器を用ひたる始とす、然るに君の獅言一ヶ的中し成績頗る可良なるものありしより二十年遂に請に依りて同所の業務を擔當し、專ら意を生絲の改良に注ぎ遂に其製品をして遠く海外に名聲を馳げしむるに至れり、尾參の蠶業君が爲に恩を享くること夫れ果して幾何ぞや。

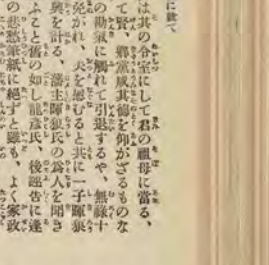
懇請辭するに由なくして鄕に歸

君愛知縣に勵を累じてより實に十有六星霜、今名古屋に揚る時に明治二十六年本會頭松平男爵知事として熊本縣に赴くや、縣下の蠶業全くなして振はざるを慨し良材を得て縣蠶業の興隆を圖ること人を東西に索め、安場氏之を聞きて君を推薦す、松平氏君の令名を聞くこと久しくして今此推薦に遭ひ垂涎欲滴する能はず、特に君が熊本縣の出なるに於て百方君を中京の地より拔かんとして懇願至らざるなし、然れども君は郷土の地は是れ第二の故郷、而かも郷外に杖を曳かば自ら捨てたる種より歸へれる蠶兒は滿室に蠢々たるを見る、爲ぜざるに忍びん、即ち固辭す、縣の懇請愈急なり、君即ち縣蠶業や……急ぎ熊本に歸へれ、君の料理を欲す、君の懇請愈急なり、君即ち縣蠶業の料理を欲す、君の懇請愈急なり、君即ち縣蠶業の料理を欲す、君の懇請愈急なり、君即ち縣蠶業

龍彦氏と呼ぶ津尾子女史は其の名にて君臣の關係に當る、夫に仕へて真、子に敬へて賢、夢寐成其績を仰がざるものなし、龍彦氏の主君細川公の勅旨に觸れ引退するや、無疵十三年間家計を支へ饑渴を免れ、夫を慰むるよ共に一子陳泉氏の教育に心を碎きて再興を計る、湯主陳狐氏の爲人を聞き家名を再興し扶持米を給ふこと循の如し龍彦氏、後遥告に逢ふて驚に投ぜらる、女史の悲歎筆紙に絶すと雖も、よく家政を整理し、陳狐氏の教育に心を傾け日夜練明に勤り龍彦氏の寵を雪かんとす、天女史の心を愛てか、三年を經て龍彦氏遂に疫さる、一家喜べば三度不幸至りて三年を經て龍彦氏遂に歿す、女史の不幸幾何ぞや、然れども陳狐氏女史の圓育其宜しきを得て藩の鑑となり智勇藩に鳴り衆人に敬せらるゝに至れり、君は其第二子なり、今日ある所には偏へに君の父君の德を受け、女史の感化を受くることの深き今日ある所にはあらざるか、津尾子女史が陳狐氏と共に藩より母子同日を以て其善行を賞せられたる固より然るべきのみ、女史明治十年名古屋に逝く、今人皆其德を慕ひて婦人の鑑となす、即ち扨げて實業界の範とせん。

紹介　**秋蠶飼育の秘訣**　全　**堀澤七郎**　著

信州の蠶業組織に於ては毎年蠶飼育の一部として其試驗場を設ける其例いまだ日已の秋に稀缺を戒むるに忽ぶ子にて蠶業の他電超越せられたの新時夫蠶の如き蠶ともなりて此に蠶はれたことである傳に曰く自百の秘訣書であらう定價三十五錢秋行所東京市神田區美土代町三ノ一明文堂



佛國に於ける絹增量法に就て

東洋國際外貿業練習生　三田長太郎

タンニン劑の發見……露國行

貨車中の火災

絹織維の上に或物質を附加し其重量を增加することは絹工業界に於て極常に實驗せられたる所であつて、其最初にありては製絲又は撚絲の工程中各種の脂肪、膠或は製絲の殘液（繭より製出だされたるもの）等を用ゐた、而して繭の殘液を以て絹を處理する時は一%以上の增量を得るけれども同時に其含有する不純物に依り光澤を害するは免かれ難いと云つてを、其後に於て蜜、砂糖等を以て增量を爲すこと久しく行はれたが、其量僅少にして練減り（二十五乃至三十%）

の半に及ばなかつた、次で第十八世紀の前半頃より黑染め行程中適當の增量を爲すことが行はれ、第十九世紀の始め、ダックス、「カッチン」等の「タンニン」劑發見は益々同行程の向上を促がし、現今にては其「タンニン」鐵媒染の手段を以て二五〇乃至三〇〇%の增量を爲すは誠に易々たるの業に過ぎない、一般の用に供せらるゝのみなるべきに、其他の裝飾用等比較的安定の位置にあるものに限つた、之れ同法を施こし、多量に目付せられたるものは著しく其强度を害し、脆弱に陷るの缺點があるが、現に數年前露國行貨車中に同じく火災を起こしたる例もあるのである、而して增量の最大限度は一に其原料絲質の善良ならざるものに至りては今日四〇〇%の增量を爲すこと少なくないとのことである。

錫應用の發明

黑染增量は「タンニン」劑と鐵媒とを以て交互に絹を處理するのであつて、其方法は已に我當業者の熟知する處であるから茲に之を略するのである。

白「クリーム」薔薇其他の淺色には「タンニン」を使用することは不可能である、之れ「タンニン」其物の色を纖維の上に留りなるからである。從來染色業者は其缺點を有せざる增量劑を見出すことに苦心したが、一八八〇年に至り始めて錫を應用することが發明せられた、然れども其當時にありては彼等先づニーメー（二六乃至二八度の第二鹽化錫液を作り、絹絲を其中に浸漬し、後之を絞げ多量の水中にて水洗したる後「ポーメー」五乃至六度溫度攝氏三五乃至四〇度の炭酸曹達に通ずるのである、此行程を數回反覆して三〇%內外の付着を得た然れども斯の如くして得たる絹は其光澤を缺き手觸りの惡しき缺點を存した。

用水選擇の困難

一八八九年乃至九〇年に至り、在來用ゐたる炭酸曹達に代ふるに磷酸曹達を用ゐ其液の溫度を半練には五〇乃至五五度全練には八〇乃至九〇度とした、其結果增量の度を增し、又光澤手觸りをも可良ならしむることを得た、然れども同時に此新法の缺じたる困難は用水の選擇である、若しも其水が硬水であつて石灰分を含むなれば纖維上に磷酸石灰を殘置するのである、勿論理論上に於ては其原料を更に硫酸又は鹽酸を以て處理する時は之を除去し得るべきであるけれども實際にありては全く其効無く尚ほ原料は永久的に手觸りの粗惡を來すのである。（未完）

日本之養蠶絲　全　東京蠶業組織期成會　編輯　知正　譯

本書は東京蠶業組織期成會が世界に關する諸書を參考して本邦の蠶業に關する諸事項を詳細に記載したるものにして其文章は平易にして明瞭なるを以て

佛國に於ける千九百九年度の收繭高

佛國に於ける千九百九年度の蚕の收獲に關する結果は農務省の調査に基いて官報に掲載せられた、此の結果は養蠶家に支給する奬勵金支拂に調査したものであるから、最も正確なるものである、一言にして云へば千九百九年度の收獲は八百五十四萬六千五百三十六基にして四千九百年度の八百四十萬九千二百九十九基に比すると少しく增收したのである、之を地理的に分類すると左表の通りである。

縣名	養蠶家の數	繰立蠶種の量	收繭額
アルゼン	三六四	三六三	一六六、〇〇〇
アルプ（下）	四四三	四四三	一六六、〇〇〇
アルプ、マリチーム	三六八	三六八	一四〇、〇〇〇
アルデーシュ	三四六六	三四六六	一、二六六、〇〇〇
オード	三三	三三	一、〇〇〇
アヴェーロン	四三六	四三六	一、〇〇〇
ブーシュ、ダユ、ロース	六六八	六六八	二四〇、〇〇〇
ドローム	一六六	一六六	一、二〇〇、〇〇〇
ガール	三四六〇	三四六〇	一、二〇〇、〇〇〇
ガロンヌ	三四	三四	一四〇、〇〇〇
エロー	三三四	三三四	一六〇、〇〇〇
イゼール	四六六	四六六	二四〇、〇〇〇
ピレネーオリアンタール	四六六	四六六	二四〇、〇〇〇
ロワール	三四	三四	一四〇、〇〇〇
ヴォーク	三六	三六	一六〇、〇〇〇
ヴォルン	四四	四四	一六〇、〇〇〇
ボルン、エ、ガロンヌ	八六六	八六六	二四〇、〇〇〇
ヴォクリュール	四六六	四六六	二四〇、〇〇〇
ヴォクリュール、エ	八六六	八六六	二四〇、〇〇〇
合計	二六六、〇〇〇	二六六、〇〇〇	八四六、六六六

十九百八年に於ける養蠶家の數十二萬三千八百四名より千九百九年の養蠶家の數は十一萬九千〇六十七名に減じ掃立「オンス」數は前年度の十八萬三千〇七十三より十八萬三千百八十一に減じたるに拘らず最終の結果たる收繭額は少量とは云へ前年度に比して增加した。

上記の表で明かなる通り南部諸縣は依然蠶業に不熱心である、之れに反して今迄蠶業を少しも顧みなかつた縣の多くが急激、養蠶に從事するに至つたのは南部諸縣に比して面白き對照である、之れは重に政府の勸奬する奬勵金に原因するのである。

紀念寫眞帖豫約募集

去二日　東宮殿下の行啓を仰ぎ奉り無上の面目を施したる東京蠶業試驗所にては當日殿下へ獻納したる同所寫眞帖を複製し實費を以て謹製所員出資者中の希望者に頒たるゝ筈なるが尙同所卒業生以外の人にても希望者へは之が爲めに應ぜらるゝといふ豫約代價一冊に付き七拾五錢（印刷及製本實費外に荷造送料拾錢出來期限八月十日に申込期限は七月十日限りなり希望者は代金郵送料を添へ重金本會へ申込まるべし

千九百九年度對千九百八年度全世界生絲產額表

	千九百八年 新繭	千九百八年 生絲	千九百九年 新繭	千九百九年 生絲
佛蘭西	八四六、〇〇〇	六六、〇〇〇	八四六、〇〇〇	六六、〇〇〇
伊太利	四六六、〇〇〇	四四、〇〇〇	四六六、〇〇〇	四四、〇〇〇
西班牙	一四、〇〇〇	一、〇〇〇	一四、〇〇〇	一、〇〇〇
地中海沿岸小計	一、二六六、〇〇〇	一四六、〇〇〇	一、二六六、〇〇〇	一四六、〇〇〇
墺太利	四四〇、〇〇〇	四六、〇〇〇	四四〇、〇〇〇	四六、〇〇〇
匈牙利	二六、〇〇〇	二、〇〇〇	二六、〇〇〇	二、〇〇〇
合計	四六六、〇〇〇	四六、〇〇〇	四六六、〇〇〇	四六、〇〇〇
東歐羅巴及中央亞細亞	三四六、〇〇〇	三六、〇〇〇	三四六、〇〇〇	三六、〇〇〇
亞細亞土耳古	四六六、〇〇〇	四六、〇〇〇	四六六、〇〇〇	四六、〇〇〇
アナトリー	一四、〇〇〇	一、〇〇〇	一四、〇〇〇	一、〇〇〇
シリー及シーリア	一四六、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四六、〇〇〇	一四、〇〇〇
千九百九年度對千九百八年度全世界生絲產額表				

	千九百八年 生絲	千九百九年 生絲
其他諸種	二、三〇〇、〇〇〇	二、三〇〇、〇〇〇
歐羅巴土耳古		
サロニカ、アンゲリ	三、三〇〇、〇〇〇	三、三〇〇、〇〇〇
ノーブル	二、六六〇、〇〇〇	二、六〇〇、〇〇〇
バルカン諸島及羅馬尼亞	四、六六〇、〇〇〇	四、六〇〇、〇〇〇
希臘及クレード	六四〇、〇〇〇	六四〇、〇〇〇
甲加米	—	四〇、〇〇〇
波斯及土耳古知外（輸出）	—	四〇、〇〇〇
合計	三、六六〇、〇〇〇	四、六六〇、〇〇〇
極東 朝鮮 生絲	四六、〇〇〇	四六、〇〇〇
支那 上海の輸出	四六、〇〇〇	四六、〇〇〇
廣東の輸出	四六、〇〇〇	四六、〇〇〇
日本 橫濱の輸出	三、四六、〇〇〇	三、四六、〇〇〇
印度 カルダタ及孟買の輸出	三四、〇〇〇	三四、〇〇〇
合計	三、六六、〇〇〇	三、六六、〇〇〇
總計	一四、六六、〇〇〇	一四、六〇〇、〇〇〇

備考　極東に於ける千九百九年度の輸出は未だ全く終了せざりし時に作成したる表なるが故に同年度に於ける極東の輸出額は概算

猫　全

石田孫太郎著

從來猫類に關する記事砂さであるにせよ、猫の研究方法などに於て書いたものは殆んど無いといふてよい。猫に關する研究は成績なるべく人の考へて居る方が無いのであるが、

養蠶年中行事

愛媛縣農業學校教諭　池田榮太郎
馬場由

六　月（芒種）

本月は（芒種）の節、即ち入梅の候である、繁れる庭の夏草に置く露は吾人が倒育の疲れを思ふが如く、池邊の青柳は絲を亂し池の浮草は波にゆられて綿を誘すが如く、岸の山吹咲き亂れ、降り續く梅雨晴期計り難く、八重だつ雲の絶間に響く杜鵑の一聲は、宛ら吾人の夢を覺して上蔟の樂みを歌ふに似て居る。

テグス製造

老熟せる蠶兒にして繭を結ぶことが出來ないで綿掛け蠶繭等となりて徒に絹絲を吐放し、或は「デゾイ」裸蛹ゴロゴロキ「ヴクナシ」と稱するものとなりて、遂に斃死するものの少なくない事ことは養蠶家の皆く知る所である。此捨てゝ顧みざる貴重の絹絲を密しく廢物に歸せしめるものであるから、之れが利用の途を講ずることが必要である、而して其途現今に在りては蓋し「テグス」を製するの外良法はないであらう、即ち左に其製法の一般を示さう。

一、製造用に供せんとする蠶兒を集めて食餌の中に投じて飼ること丸二十時間の後ち之れを取り出し先づ頭部を切斷して製糸より淨かに内臓を押し出すときは二條の絲條を之に伴ひて出づるなり

一、食餌は品質佳良にして酸力強きものの使用すべし、酸力強なる醋酸液を用ゆれば特に可なり稀薄の度は水酸酸にありては水三〇〇立方センチメートルに其量八立方センチメートルとして工業用醋酸にありては水一〇〇立方「センチメートル」に付四〇方立「センチメートル」の割合を以て適度とす

一、醋液中に浸漬する蠶兒の種類即ち其品種の白色となるとなる以て適度とす其時期想を過ぎる久敷蠶種等に過ぎるときは絲條が分れ易く又は酸液濃厚に過ぎるときは目的の距離に過ぜずして截斷し或は切斷すべし

一、時間の長短は蠶兒の種類即ち其大小により相附ずる可らず普蠶は大抵二十時間にして可なるも體縦小なるものは十九時間大なるものは二十二時間を要するのなり

一、引き伸しする絲條は兩端が竹打の頭を割り下ゲして薄し截ゝなり其薄端と絲端との竹釘の距離は凡そ九寸五分許りにして適次の板に刺挿すか使と了

一、絲條の用ふべき個所は蠶繭の無く部一層搖蕩より第二層搖蕩までに出むべし

一、蠶兒の集めて中間に個所の部分あるときは製造の後ち此所より切開し易く實用に適ぜず

右の如く引き伸し終ったならば直ちに日光に晒して乾かさねばならぬ、其の乾くを俟つて、之れを取り集め束となし、馬耳窠石鹼（又は明礬、硼砂石灰等にても可なり）以て練り上げるのである。

一、石鹼の量は水二〇〇立方「センチメートル」に對し五「グラム」を溶解し之れを以て煮沸すること一時間なるべし

一、明礬硼砂の用量又銀者と同し割合にて可なるも時間は五分間なるべし

一、石灰にあれば二〇〇立方「センチメートル」の水に二五「グラム」を溶解し煮沸すること三十分にて足れり

一、右數種の内石鹼最も下り

一、煮沸して其品質最も下りて附着する滓を絲條を張つたやうに緊張せしめ除乾するのである、乾き切れる後は更に沈殿と管を用ゆれば特に可なり、以て靜かに摩擦し、表面の殘滓を叮嚀に刺き落すときは無色であって光澤のある美麗の絲が得らるゝ是れの出來上つたのが「テグス」といふものである。

又一法ある、直ちに蠶兒の絲線を取り出し、二三分間酸液中へ前者と同じに浸し、之れを引き伸ばし、前法と同じ取扱ひをすれば得らるゝのである。

「テグス」製造に適する蠶兒は歐洲種、アーレイ「ベクダー」種である本邦にありては赤熱は強力に富み、之れに次ぐも小石丸である、而して夏秋蠶は春蠶よりも劣ってる秋蠶は赤夏蠶より劣るのである、節蔦蠶蠶等の病に罹りたる蠶兒は之れを使用し得らるゝ、されども、微粒子病軟化病等に犯されたるものは使用することが出來ない。

春蠶及夏蠶元種上蔟

早掃きは本月上旬頃即ち老熟して食欲を絶ち頭部を擡げて吐絲し、將に結繭せんとするのである、故に之を直ちに指ひ取って結繭に適當する場所を與へるのである、之を上蔟と云ふ、熟蠶を掃出するには蠶兒周囲の挙動を考して尾部の二三環節に排泄物即ち二の糞を遺留する頃を以て好時季とするのである撰出したる熟蠶は暫時間席の如き清かなものゝ上に薄く平敷し、直ちに頭數を杵定して蔟中に納めねばならぬ蔟の其種類は多いが何れも間はず清潔にして乾燥したものが宜しい、而して蔟の密なるものは空氣の流通が悪るいものであるから、決して用ひてはならぬ、現今世に行はれるものゝ内最も輕便且つ良好のものは島田蔟（波蔟）百足蔟等である左に衡上蔟に付て二三の要點を記さう。

一、上蔟面は常に密氣の流通を浴かにすると同時に光線の遮射を等閑なりしめ又温度の過剰温氣の流通を浴かにすると同時に光線の遮射を等閑なりしめ又温度の高低温氣の過剰温氣の流通を浴かにすると同時に光線の遮射を等閑なりしめ又温度の高低温氣の過剰温氣の流通を浴かにすると同時に光線の遮射を等閑なりしめ又温度の高低

取ること

一、蔟中に入るべき數は蔟種造の適否又は蠶兒の種類により多少の増減あり上蔟と稱

一、蔟の材料及び數種折蔟等は温氣及蔟香氣なく可成新しきものを用ゆ上蔟のときは根棹しなる状にて羽重れたなす可らざること

春蠶及夏蠶元種收繭

上蔟中平均七十五度を保つときは凡そ二日間で結繭し終り後ち二日を經て元蛹となり、化蛹の始めにありては繭體は白色を呈し、其皮膚軟弱なれども稍もすれば擦傷して其血液繭層に染着する恐あるけれども、後ち二三日を經過すれば體色褐色に變ずるのである、從て皮膚が健全であれば此時即ち春蠶は上蔟後七日目に於て夏蠶元種は六日目に收繭するを可とする

又遲きに失するときは殺蛹乾燥に不便を感ずるのみならず蛆害を蒙むることが多いから注意して適期を失ふてはならぬ。

春蠶及夏蠶元種蛹體檢査

蛹體檢査の目的は採種用に供する成蛾病毒有無を知るのにある、其方法は、八十度位の濃鹽水に蛹を浸け之れに收蛾したるものを（但し微粒子病蠶蛆其他の病毒寄生したる蠶兒は發育遲るゝ傾向があるから、曉然の成蛾に就き檢査するがよい）四五日間位入置き、以て蛹内蠶蛆を老熟せしむる為の粒子病其他の病毒は充分繁殖するより數十個の蛹を取り其蛹體を搾り潰して顯微鏡にて寫ふときは病毒の形体を熟知することが出來る、此檢査に於て無毒なるものは種蛹用とする、蠶蛆の寄生又は有毒のものは直ちに殺蛆乾燥を行ひて製紙用に供するが良い之れ一ツは遺傳病毒を滅殺し、一は廢棄蠶種となる即ち種蛹を以て無毒と同様なる生絲を製出するに一挙兩得の策である蠶家たるもの必らず行ふが良い。

蠶蛆の驅除法

蠶病豫防驅除と稱せば微粒子病、軟化病、殭化病、膿病等の如くにその觀念を有して之を蠶蛆に勉むるものが少ない、今に於て之が豫防驅除の法を講ぜなければ他日救ふべからざる損害を蒙むるに至るであらう、其方法は蛆の溺田すことの出來ざる様、蠶室を設くべき室の周圍には

蛹等を始め蛾等に至る時間は長短は温度の高低により異異なれども概ねにて高温なれば速かなり年被二三時頃種紙に移し爾後次第動靜あり氏七十五六度なるときは風呂に蒸れ日没の頃最も盛んに産下す其後漸次動靜あり氏六度なる九時頃に到り一度産卵を休止し同十時頃に於て又全部の産卵終了するに其最終の産卵は概ね午後二時頃に至る。

（二）種紙は温風及乾燥なきものにして百枚の量八尺百目以上の瓦質のものを用ふること

（三）平書きに仕蠶養政に採調等の香氣なる物品用ひ乾燥する後産付しむること

（四）蠶種一枚毎に置く定規は蛾の周囲に置び出づるか防ぎ且つ是れに煙草衛生する為智易に試の為ちるもう諺を良て強硬たるものを用ひることと但し胡椒の油か用いてなり可なりとす

（五）原種は抜律の示す所により二十八蛾毎に一枚とす一区毎に恵倫製の猫丹形を作り其寸法高さ一寸土部の直径一寸三分以上とす絵り挟痕ならざるを可とす

（六）新製に用ふる原紙は質最も善良にして百枚に付三三百目を通常とす

（七）蛾毎に母蛾に産卵せし蠶種に認入しある為の薬飲と間隔既に附せる紙製一紙毎に収め置び出でさる蛾二十八蛾分を縛にて束ね後直ちに之れか夫分乾燥せしめて本乾燥前の如く貯蔵すべし

春蠶種第一期保護

（産卵當時より凡そ七八日間）

此時期は即ち生種の時代にあつて卵内の細胞盛んに分列し胚子の成形しつゝあるときであるから、最も外界の障害を受け易い、故に鱗毛、塵埃の附着を避け、水氣、燻草、又は臭氣等も觸れないやうにせなければならぬ冷室又は熱氣ある床上に置くは甚だ宜しくない、相重積し、又は動搖を與ふることは最も不可である。故に乾燥にして清潔なる床上に一枚毎に平列し、可成新鮮なる空氣を與ふることに注意せねばならぬ狹き室又は小さき容器に入れ空氣の触之を與ふるは甚だ宜しくない。

殺蛹乾繭

繭種に於て撰別の殘り繭丼に製絲用繭其他の生繭は直ちに殺蛹乾繭を行はねばならぬ、本法は製絲の項に於て詳述するが便利であるから、茲に之れを略する。

春蠶結了後の消毒

春蠶結了せば成可使用せし蠶薬の如きは燒却し、蠶具（蠶具等を洗滌して消毒を行はねばならぬ、而して消毒は天然温度の高ふるとに於て行ふが最も有効であるから春蠶前の消毒は倘ほ更に効力確實であると認むる、左に最新實驗蠶病豫防法の一表を掲げ置くてあらう、

薬品は「フォルマリン」の量は氣温の高低によりて一定不變の表により示すとは申難かない、春夏秋の時期に依り斟酌せねばならぬ、次表の夏期とは八九月冬期とは一二三月を云ひ病菌は卒倒菌を用ひたるものてあつて、一立方尺に要する者効程度の瓦斯を表はしたる者である。但し消毒室は千三百立方尺で實驗したのである）

項目	一枚	二枚	三枚	四枚
百一枚毎	夏期 0.110	0.110	0.112	0.112
	冬期 0.112	0.115	0.118	不明
三百枚毎	夏期 0.110	0.110	0.110	0.115
	冬期 0.114	0.114	0.115	不明
五百枚毎	夏期 0.112	0.112	0.115	0.118
	冬期 0.115	0.115	0.118	不明
八百枚毎	夏期 0.112	0.112	0.114	0.110
	冬期 0.115	0.115	0.114	不明
千枚毎	夏期 0.118	0.118	0.112	0.115
	冬期			

實驗中夏期は室内温度七十度乃至九十度冬期は七十度乃至八十度に相當する

所要の「フォルマリン」量を見出すには其室に應ずる適瓦斯量に百を乘じ「フォルマリン」の含有率%分を以て除すれば宜しい、消毒の方法は三月に述べたるものを參照せられたい。

夏蠶及び秋蠶元種の掃立

秋蠶元種とは秋蠶生種即ち二化性の親蠶である、早掃は何れも本月十日前後より「夏至」に至る間に掃立する、夫れより順次下蟻を為すけれども普通は二十日前後に掃立するものが最も多い、從來夏秋蠶の失敗は飼ね蠶種に基因するけれども、赤主なる關係は氣候にあるのである、即ち下梅雨中であつて室氣温潤であるから、飼育者は特に乾燥に注意せなければ好結果を奏することは出來ない。

夏秋蠶種の輸送

（蠶種年々行事）

以夏秋蠶種の輸送は、春蠶種輸送と反對の取扱を要する、同じくなれば夏秋蠶の生種は呼吸頻繁且つ水分の發散多量の為め、之れを危險なる容器に密閉するは蠶種生理上の禁忌たるは、其宜しくないからである、故に温度の變更よりも空氣の流通に注意せねばならぬ、即ち量一夏に對し一寸立方五坪以上の割合の蠶種は凡二十五坪以上の割合なれば如何なる高温時でも遠地に郵送するに害はない、總て生物は產卵後四五日以上經過せざるものは決して輸送してはならぬ、風穴種（一名黑種）にあつては、風穴より取出後二三日外氣に觸れしめたる後直接外氣の浸入せざる容器に納めて輸送するのが宜しい。

園風圖詠

六月炎方盛、揮汗苦難、酔老綾雖綻、當釜自抽、繰車悠轉々、且喜月週遭、婦子躬蠶落、自免淫情思、旬日可經紹、衣食雨有、資、盆倉滿、能業、何事能如之。

師範簿記學教科書　全　川戸藤吉著
本書は師範学校教学科目商業学科に於ける簿記の教科書に充てん為に編述したのである都一編総論二編複式簿記三編単式簿記に分ちて更に各編を数章に分ち各一編毎に内容に応る問題なるものである一週二時間二十四週の教授用としては少しも過剰か認めぬ一般学校教育上有益の教材なり
赤本書に於て簿記に練習せられて可なりん（定價五十五錢送料行所東京市本郷区弓町一ノ三松文堂）

絲況

横濱市場

▲五月中の横濱市場　前月末不振の跡を受けた市場は五月へ這入つても矢張沈都である、端境期の見切賣をする向きの出てたるが爲か、上一八百四十圓より八百三十五圓に下落し細筋及國産物、二二十圓方の急落を告げたが、夫れでもマダ十分の買人がない、尤も中旬に及んで歐米向に共に註文が來て各館何れも太筋及細筋の買入を爲し、而かも其手合高多數に上り上一再び八百四十圓となつたが、此手合は多くは米發表であつたから、市場は存外不振の狀態に見受られた、下旬に至りても市中の在荷漸次減少し倫敦の塊相場が騰貴したので絲價は安値を現はさず上一八百五十圓に持合ひ細筋物十圓の下拵を見た次けである、けれども内地向きの不振依然たる爲人氣は漸次ダリダリ安の成行で越月したこと。

▲價格の差　斯くて五月中の最高値は三河日盛谷細九百十圓、最低直は信濃光進上太の八百二十五圓である、昨年の同月に於ける最高直は美濃福助製絲細か一千圓で最低直は七百八十圓であるから、之を比較すると本年は高直に於て九十圓低直に於て四十五圓の差がある譯けである。

▲生絲の集散　倘五月中に於ける生絲集散の狀況は次の如くである。

明治四十三年五月自一日至卅一日生絲集散表

	持越	入荷	賣了	地方發送	繰越
器械	二一〇〇一	一四三一五	一四五三一	一一三三〇	
座繰	三七三	一九四	一八四	五三	二〇一
撰返し	七一				二一
繰絲	五一	二八		三六	四三
合計	二一一五〇七	一一六六二二	一一〇八〇三	一一七二六	二一一五九八

明治四十三年五月自一日至卅一日生絲集散日別表

器械大△　同中小○　同細○　座繰同○　撰返し横×　繰絲＋

	入荷	手合賣了	引戻	輸出	地方戻	同名	社名	種類	最高値	最低値	摘要
一日											日曜日
二日	九八三	三九五	四九九		一七	信濃投	明治金社	□	八五〇	八四〇	歐洲向へ信州物價底となり十圓安にて少々引賣行なる依然不振の現狀なり
三日	五一八	六四	四五七	八〇八	三八	同日本	社白	□			國光日へ二日取出来ずしの外他には効たる商談なし
四日	六一〇	三六	四七五	六三六	三〇	信濃深志	館定	△	三〇〇	八三〇	歐洲向へ多少の商談を見せたれども墨守新安直の噂へつゝあり
五日	七〇七	五九八	七七四		一一四	武蔵信濃	上水社	龍紅	八七〇	八七五	信州器械の方賣行になり相場に五圓安から小し面白からざる賣行なりし
六日	三七四	一四五	九八七		九八	下越信濃	林節紅	製絲	八八五	八八五	來發表に八百六拾圓後の相場に見切商ひ出來したるも氣帽は續びて面白からざる成行なりし
七日	三八二	四二六	八〇三		六四七				八四〇	八三五	商談弗々行はれ總て變らざる成行なりし
八日					五二	信濃岡小	谷口製	絲	八四〇	八三五	日曜日
九日	八三二	六七三	八六〇	九	六五	信濃尾	江	組	八四〇	八四〇	歐洲向に信州及細蒲物弗々商談なり
十日	五一七	一一一	八六五		六三	武蔵秩父四	谷製	糸	八四〇	八三五	歐米とも此後一段と商談薄く落付委あり
十一日	五八八	一〇一	一〇一	一、四九一 五、四〇〇	一五	信濃越後	金	組	八六〇	八五〇	前報同事商談薄なり
十二日	三一五	二六五	九八三		六八	信濃信	社	蜂	八七〇	八七〇	歐洲向に信州及細蒲物弗々商談なり
十三日	五六五	一八	一、〇〇一	三一	八三	信濃小俊	上西	社	八五五	八五五	來し相場は弱り乱し
十四日	四七八	一一六	八六三	二七	三四	信濃光明	社金	組	八四〇	八四〇	繰々商談なく至て靜況なりき
					一〇〇	信濃治	社	□	八五〇	八五〇	國光日へ同直に接分か手合あり捌々しからざれども矢つ張合へり

備本年五月中の生絲集散の狀況を示し、且つ五月末に於ける統計と前年の夫れとを對照すれば左の如くである

▲は減じた印×印は増した印

年次	持越	入荷	買了	引渡	繰越	輸出數量	輸出價格
四十三年	三、六六四	一、〇〇四	四、六六八	一、〇〇四	三、六六四	一、〇〇四	—
同 年二月	五、〇一一	一、〇四六	六、〇五七	一、〇四六	五、〇一一	一、〇四六	—
同 年三月	三、七七〇	一、〇五四	四、八二四	一、〇五四	三、七七〇	一、〇五四	—
同 年四月	二、二四二	一、二三六	三、五七八	一、二三六	二、二四二	一、二三六	—
同 年五月	四、六六	一、二一〇	五、八七六	一、二一〇	四、六六	一、二一〇	—
同 年六月	三、七七〇	七、七九四	一、〇五四	七、七九四	三、七七〇	七、七九四	—
同 年七月	新一、二四二 古 四、六六	八、八四〇	九、六	八、八四〇	新一、二四二 古 四、六六	八、八四〇	—
同 年八月	一、二三六	六、四〇	一、二三六	六、四〇	一、二三六	六、四〇	—
同 年九月	一、〇五四	七、一八	一、〇五四	七、一八	一、〇五四	七、一八	—
同 年十月	一、〇四六	七、三二一	一、〇四六	七、三二一	一、〇四六	七、三二一	—
同 年十一月	六、八八〇	一、〇五四	七、九三四	一、〇五四	六、八八〇	一、〇五四	—
同 年十二月	三、七七〇	一、〇四六	四、八二四	一、〇四六	三、七七〇	一、〇四六	—
計	四、六六	一、〇四六	五、七一二	一、〇四六	四、六六	一、〇四六	—
四十二年五月比較	三、七七〇	六四〇 ×	四、四一〇	六四〇 ▲	三、七七〇	六四〇 ▲	—

▲四十二年度の大勢

生絲業は五月末を以て四十二年度の終了を告げ、六月より將に四十三年度の新絲期に入らうといふのである、今や內地の製絲業者は新繭の買入に着手し、横濱の內外商は新絲の出荷を待つて新なる取引を開かうとして居る實に內地の生產は逐年增加の趨勢で、昨年度に於ては横濱市場へ入荷せし數量は二十五萬九千九百餘俵に上り、前年度の持越分を合すれば二十七萬九千六百餘俵である、之を前年度即ち四十一年度に比較すれば約一割の增加である、而して輸出額も、横濱市場に於ける曆年度の輸出表を見れば略ぼ其大勢は知らるゝのである。

種類　四十二年　四十一年　四十年
銘柄一（量）　二、三五六、五二一　二、三五〇、〇五六　二、三五〇、〇五六
銘柄二（價）　二、三五六、五二一　二、三五〇、〇五六　二、三五〇、〇五六

合計	太絲	座繰	其他	合計
一三、六二二	二、三五六、五二一	二、三五六、五二一	二、三五六、五二一	二、三五六、五二一
六〇六四	五〇一一	五〇一一	五〇一一	五〇一一
四、六六一	一一七	一一七	一一七	一一七
一〇、八〇三	七一一八	七一一八	七一一八	七一一八
二八七	一一一六〇	一一一六〇	一一一六〇	一一一六〇
五、八二〇	一、七六六	一、七六六	一、七六六	一、七六六
一、七六六	五二	五二	五二	五二
一、七六六	武蔵 東	武蔵 東	武蔵 東	武蔵 東

（備考）　重複及讀

斯の如く輸出數量は逐年增加しつゝある中に就て昨年は殊に空前の巨額に達した、唯だ併しその價格の甚だ不引立であつたのは遺憾である然しながら一方より考ればこの場低廉の結果は相當に相場の需要を起し從て世界の各方面に原絲及び製品の新販路を開きたる相違なく、爲に其報償の早晚來るべき時機のあるのは必然である、吾輩は舊年度を送るに當りこの巨額の數量が良く消化されたるを祝し、且低廉に消化されたるがため將來の好强を期待するを得るを喜ぶものである

▲新絲の相場如何　新絲は古絲より光澤があるから例年と雖も、其價格高位にあれど本年の新絲相場に比し、約十圓方下位にあるやうだ、斯の如きは珍らしき現象である、尤も今日迄の處多くの製絲家は四十二掛見當で商を仕入れたる模樣であるから十圓安でも敢て損失はなかろう。

▲市場不振の原因　市場の振はざる原因は頗る世界の生絲產額が著しく增加せし事、其主因であるけれども近因としては唯一の得意先たる米國にリボン使用の流行全く衰滅したるに基いて居る、左れと此流行は或からず復活するに相違ないか

日	曜日	定	日	曜日	定	日	曜日	定
八五〇	日	〇	八八〇	日	〇	八八〇	日	〇
八五五	月	〇	八八五	月	〇	八八〇	月	〇
八五〇	火	〇	八八〇	火	〇	八八〇	火	〇
八五〇	水	〇	八八〇	水	〇	八八〇	水	〇
八五〇	木	〇	八八〇	木	〇	八八〇	木	〇
八五〇	金	〇	八八〇	金	〇	八八〇	金	〇
八五〇	土	〇	八八〇	土	〇	八八〇	土	〇
八五〇	日	〇	八八〇	日	〇	八八〇	日	〇
八五〇	月	〇	八八〇

ら漫りに前途を悲觀すべからずと或者はいへど如何にや。

▲蘭仕入と製絲業　世間に數ある事業の中で製絲業程苦利に多額の資金を要するものは殆どないであらう、去れば製絲業の成功と失敗とは主として其原料仕入の巧拙に因りて決するものである。此事情に何人も知り抜いたる事なれど、イザ仕入となると毎年十萬盤ム宮にて繰出すである、本年伊豆の蘭相場は現價の現狀に顧みて頗る高い樣だ、試みに見積に過去の數年に渉て蘭相場から見ると次の如くである。

年次	蘭一貫目	上一番相場
三九	五、五〇	九八五
四〇	七、二五	一、二六〇
四一	四、〇〇	八四〇〇
四二	四、六〇	八六五
四三	四、二〇〇	八三五

紐育市場

組替に於ける生絲市況に付き同地駐在水野總領事よりの電報左の如し。

生絲市況報告（五月十四日發電）

生絲市況報告（第四、エキストラ）三、五七、三、六〇信州、エストラ三、五七〇五月十七日發電）

生絲市況報告（前々日霧の氣味あり（五月三十一日發電）

里昂市場

愛宮生絲の農況に關する報告に伴ひ相場も手堅く持合ひ取引も新絲も進から了解にて、時期の向ひたる伊太利に於ては未だ約定調あらざる處によれば實賣者共に大に注意しつゝあるが現今國の時期出來高は左の如し

（四月十六日報）

佛國セクヤース	一等	四四法五〇
伊太利	一等	四七法
ヨセモン	一等	四七法
ブルース	一等	四三法
同	一等	四〇法
シリー	一等	四四法
同	二等	四一法

會務錄事

支會職員の囑託

本會高知、島根二支會長幹事長異動ありたるにつき、支會長の推薦に依り、慈長殿下より、京都、三重、宮城三支會會長に、京都、德島二支會顧問長に、京都支會幹事長に、北條田邊、藤井、根岸、根本吉太郎、葛野、櫻井、櫻井大太郎、伊高木謙二郎、高知支會幹事長、賀川平太郎、島根支會幹事長、大塚太郎、三重支會幹事長、盛太郎、宮城支會幹事長、三浦尾、岡崎、由八、福地由蔵、胡三郎、鈴鹿四大次郎、河盛、德島支會顧問長、太田、德田元、宮崎、上田、佐治、京都支會顧問長、由崎、桑原、

地方委員部職員の囑託

本會愛媛県地方委員部副長鉄長の庶今回地方委員長の推薦に依り、慈長殿下より左の通り囑託あらせられたり

愛媛地方委員部副長　岡田宇之助

特別會員の推擧

左記の諸氏は本會々務に貢獻する功勞顯著なるを以て本會功勞者及篤志者待遇法内規に依り推擧せられ去る四月十七日付を以て左の通り囑託せられたり

福岡支會

高橋重太郎	左近正武	岡崎昌平	木村司	赤津佳	牧川村	佐藤久	大久保	山田利	山本利
江藤新	池田納	浦田納	野村正	吉田義	渡辺直	林文芳	上野一郎	東久助	中之助
中村紀	水谷見	鈴木直	佐藤天	佐藤天	佐藤多	大田石	下田	田中正	田中賓
田中深	田林作	津田恒	池田埴	齋藤芳	佐藤一	濱田郎	濱田郎	濱田郎	濱田郎
濱田郎	濱田郎	濱田郎	濱田郎	濱田郎	濱田郎	濱田郎	濱田郎	濱田郎	濱田郎

害蟲の買上なる可き價格はその加害の程度及土地の狀況の如何により夫々標準を定むべきものであるから、玆に明示すること能はざれども、今買上に對する注意を述ぶれば、加害をしうるか高價に買上くべきに勿論である、けれども其の採集の難易によりて價格に等級を附することも亦止だ必要である。

養蠶業收支計算に就き質問

蠶兒飼育上出納標準表調製したいと思ひますが今明蠶業四名に詩し左表の如き計算にて大差ないでせうか御教示下さい。

道常會員　福岡仙治

上蔵十二貫目出納標準表調製代價蠶業代價表

收入の部

一貫目に付	一、〇〇〇	〃	一、〇〇〇
百八十貫目に付	一、〇〇〇	〃	一、〇〇〇
一四、四一	一六、二一	〃	一、二〇
〃	一八、一	〃	一、二〇
〃	一九、八	〃	一、二〇
〃	二一、六	〃	一、二〇
〃	二三、四	〃	一、二〇
〃	二五、二	〃	一、二〇
〃	二七、一	〃	一、二〇
〃	二八、八	〃	一、二〇
〃	三〇、六	〃	一、二〇
〃	三二、四	〃	一、二〇
〃	三四、二	〃	一、二〇
〃	三六、一	〃	一、二〇
〃	三七、八	〃	一、二〇
〃	三九、六	〃	一、二〇
〃	四一、四	〃	一、二〇
〃	四三、二	〃	一、二〇
〃	四五、一	〃	一、二〇
〃	四六、八	〃	一、二〇
〃	四八、六	〃	一、二〇
〃	五〇、四	〃	一、二〇
〃	五二、八	〃	一、二〇
〃	五五、二	〃	一、二〇
〃	五六、八	〃	一、二〇
〃	六〇、〇	〃	一、二〇
〃	六二、四	〃	一、二〇
〃	六四、八	〃	一、二〇
〃	六七、二	〃	一、二〇
〃	六九、六	〃	一、二〇

一收入の部に於て蛾蟻四分に付上蔵十二貫目と雖定するは最上作の場合に於ける收穫なるを以て多き方に過くるべきであらう、故に十貫目を基準と認むる、又下蔵同

答　桑業代價表　平均價格

桑業代價表

一貫目に付	〇、八〇	〃	〇、八〇
百八十貫目に付	一、〇〇	〃	一、〇〇
一四、四一	一六、二一	〃	一、二〇
〃	一八、一	〃	一、二〇
〃	一九、八	〃	一、二〇
〃	二一、六	〃	一、二〇
〃	二三、四	〃	一、二〇
〃	二五、二	〃	一、二〇
〃	二七、一	〃	一、二〇
〃	二八、八	〃	一、二〇
〃	三〇、六	〃	一、二〇
〃	三二、四	〃	一、二〇
〃	三四、二	〃	一、二〇
〃	三六、一	〃	一、二〇
〃	三七、八	〃	一、二〇
〃	三九、六	〃	一、二〇
〃	四一、四	〃	一、二〇
〃	四三、二	〃	一、二〇
〃	四五、一	〃	一、二〇
〃	四六、八	〃	一、二〇
〃	四八、六	〃	一、二〇
〃	五〇、四	〃	一、二〇
〃	五二、八	〃	一、二〇
〃	五五、二	〃	一、二〇
〃	五六、八	〃	一、二〇
〃	六〇、〇	〃	一、二〇
〃	六二、四	〃	一、二〇
〃	六四、八	〃	一、二〇
〃	六七、二	〃	一、二〇
〃	六九、六	〃	一、二〇

有の表に前項の收支を加算して損益對照する

答　學藝委員　土屋泰

問答

害蟲實上の件に就き質問

道常會員　小牧清作

付農會に於て柔蟲の害蟲を實上げんとする場合に如何なる比例を以て實上げて宜敷や御明示を乞ふ

五、例へば天牛に付頭或は一錢に何匹と云ふが如し（被害蟲も多き

答　學藝委員　明石弘

害蟲の實上なる可き價格は其の加害の程度及土地の狀況により夫々標準を定むべきものであるから、玆に明示すること能はざれども、今買上に對する注意を述ぶれば、加害をしうるか高價に買上くべきに勿論である、けれども其の採集の難易によりて價格に等級を附することも亦止だ必要である。

養蠶業收支計算に就き質問

蠶兒飼育上出納標準表調製したいと思ひますが今明蠶業四名に詩し左表の如き計算にて大差ないでせうか御教示下さい。

道常會員　福岡仙治

上蔵十二貫目出納標準表調製代價蠶業代價表

收入の部

一貫目に付	〇、八〇	〃	〇、八〇
百八十貫目に付	一、〇〇	〃	一、〇〇
一四、四一	一六、二一	〃	一、二〇
〃	一八、一	〃	一、二〇
〃	一九、八	〃	一、二〇
〃	二一、六	〃	一、二〇
〃	二三、四	〃	一、二〇
〃	二五、二	〃	一、二〇
〃	二七、一	〃	一、二〇
〃	二八、八	〃	一、二〇
〃	三〇、六	〃	一、二〇
〃	三二、四	〃	一、二〇
〃	三四、二	〃	一、二〇
〃	三六、一	〃	一、二〇
〃	三七、八	〃	一、二〇
〃	三九、六	〃	一、二〇
〃	四一、四	〃	一、二〇
〃	四三、二	〃	一、二〇
〃	四五、一	〃	一、二〇
〃	四六、八	〃	一、二〇
〃	四八、六	〃	一、二〇
〃	五〇、四	〃	一、二〇
〃	五二、八	〃	一、二〇
〃	五五、二	〃	一、二〇
〃	五六、八	〃	一、二〇
〃	六〇、〇	〃	一、二〇
〃	六二、四	〃	一、二〇
〃	六四、八	〃	一、二〇
〃	六七、二	〃	一、二〇
〃	六九、六	〃	一、二〇

一收入の部に於て蛾蟻四分に付上蔵十二貫目と雖定するは最上作の場合に於ける收穫なるを以て多き方に過くるべきであらう、故に十貫目を基準と認むる、又下蔵同

蠶桑雜觀

▲生絲の富士山大好評

目下英國倫敦に開會中なる日英博覽會に本會より出品したる富士形の出品物は頗る好評を博し、本邦の絹絲を世界に紹介せんとしたる、本會の目的も技に達せられたる次第なるが、在倫敦總領事より五月七日發ち送付の報知新聞、寄せたる記事左の如し。

第廿三號館に入れて銀細工の美術品と共に並べて置きたる日本蠶糸の出品は、一番高き三間半位より眼野まで悉く生絲にて作り上げ八面玲瓏たる富士山ぶりの形を示すに、日本に於ては自然も美術的に出來たりと感賞久しく、今ニ十日より五日間農商務省に於て開かるべき生産調査會の委員に左の如し。

▲生産調査會

平井晴二郎　波多野承五郎　仲小路廉　若槻禮次郎
清浦奎吾　一木喜徳郎　佐藤昌介　石井菊次郎
押川則吉　手島精一　久保田譲　高橋新吉
松崎蔵之助　磯部正春　小松原英太郎　小山善
上山滿之進　中松盛雄　川田龍吉　川畑治平
高橋是清　下岡忠治　中野武營　我妻栄
田中光顯　渋沢栄一　船越衛　田健次郎
武井守正　高男木源之助　寺島誠一郎　田健次郎
近藤廉平　牧朴真　一木喜徳郎　勝海舟
添田壽一　加納久宜　三島彌太郎　山本達雄
益田孝　大谷嘉兵衛　穂山和夫　岡崎邦輔
和田維四郎　伊藤長次郎　細谷駒次郎　益田孝
早速整爾　大岡育造　大野龜三郎　大倉喜八郎
高柴三郎　上柴安太郎　元田肇　渋沢栄一
根津嘉一郎　野田卯太郎　豊川良平　岡崎邦輔
上原勇作　豊川良平　森村市左衛門　中野武營
土屋逸夫　四村治兵衛　中野武營　木村駒二郎

蠶室排氣用圓筒に付質問

新潟縣
通常議員　田邊一郎

圓筒の吸引作用に依り室内の換氣から しんとするには、圓筒の長さは少くとも直徑の十倍以上を要する、然れども排氣の目的から屋上に建設する圓筒に汽笛、或は電話の突と上に某殺の高に、屋上に排氣の目的関けた外なる、而して此目的より雨露と通風の侵入を防ぐ為に無首形等として、風切りを附し風向に依り回轉する裝置を必要とするのみでなるから、圓筒の長さは延なければ、捉突の如く一定の法則に従かて建設せざれば効力がないと云ふ事である三尺にても四尺にても有効である。

人工越冬三化蠶種製造に就き質問

三重縣
通常議員　三井盛雄

二化性第一化孵製造後五日數例壓蛹化期を延長して三化に續化致すや伺ひたい。

答

蠶桑委員　荒木武雄

第一化期孵産卵後五日目に急に温度五十八度乃至六十度の室内に移して強育すると、此一定の温度中に於て強育する日数は、大体廿二日である、而して強育温度が高ければ蠶兒は強健である、三化になるものが多くなれども、反して低ければ三化になるものが多いけれども蠶兒は虚弱である。

蠶室排氣用圓筒に付質問

新潟縣
通常議員　田邊一郎

圓筒の長さは少くとも直徑の十倍位以上を要する、然れども排氣の目的から屋上に建設する圓筒は汽笛、或は電話の突と上に某殺の高に、屋上に排氣の目的関けた外なる、而して此目的より雨露と通風の侵入を防ぐ為に無首形等として、風切りを附し風向に依り回轉する裝置を必要とするのみでなるから、圓筒の長さは延なければ、捉突の如く一定の法則に従かて建設せざれば効力がないと云ふ事である三尺にても四尺にても有効である。

蠶桑雜觀

千早正夫郎　小幸謙吉　田川大吉郎　鹿川辨三郎
田中正香　日比谷平左衛門　石河幹明　細田馬之助
野崎徳太　松山忠二郎

問　蠶業課長出席の如し

▲蠶糸業の發達及改善に關する件

蠶糸は本邦重要の物産にして、輸出品の大宗たり之を既往に顧るに其輸出額例へば十年に於ては約千萬圓明治二十年には約二千萬圓明治四十二年に至りて一躍一億三千萬圓に達し、爾来本邦生産物中輸出品總價額の三割五分を占め之に次ぐ重要の輸出物の原料を合算するときは、蠶糸は本邦生産物中最も重要なるものと云ふべきである。

之を世界に於ては、日露戰役後の発展を見ること、日清戰役後の発展に比し、一大飛躍を為した

或は品質の改良に普諭苟は増收改良の除地紓しとせず依て之に關する協議の方針を定めんと欲す

▲製絲荷爲替立替金

横濱蠶絲貿易商同業組合にては蠶絲荷爲替其他立替金に關する利率を左の通り決定六月一日より施行することゝなりたる旨通知を發せり

生　糸　百圓に付日歩金二錢五厘　同廢品　同　金二錢八厘

而して右荷爲替標準利率は從前の通り時度に習て生絲七掛荷爲替品五掛を以て取扱ふ筈なりと

▲生糸輸送上の注意

古川政道院中部常務長は生糸の輸送に就き關係者に左の警告を發したり

一　本品は荷造の其他の調査を確實にし異狀なきを認めて受付け發送の手續をなすべく尚關係驛にては其取扱方の親切、中堀運輸係等の爲め事故を發生せしめざる事

一　各驛にては所用貨車の調査に有機を知らざるを以て尚鋭意之が調査を受けたる關係運輸事務所及驛に於ては益々迅速に授給なす事

一　本品積載に要する貨車は毫も由後の慣なきものを選擇配給すべく各驛にても最適檢査の上其完良なる確認たる後使用し必ず長近列車に連結の手配なす事

一　組立車輛にて自驛發送のものに尚鋭中間驛より發貨車連結の請求ありたる時は必ず之に應ずると同時に當該列車に連結の行先車數を區別し漏なく次の組立驛へ又最終の組立驛に電報の事

一　前項の通知を受けたる組立驛は直送の手配なし若し直送し能はざる時は必ず最近列車に編送を要す

一　到着車に對しては現品の荷卸引渡分を迅速に處行する事

一　本品積載車輛途中事故生じたる時直に照會の手續なし其旨當局營業課及發着驛並に所管運輸事務所へ電報の事

▲生絲整理法普及證書授與

在横濱なる農商務省生絲檢査所に於て去る一月以來養蚕改良生絲整理法傳習生智得證書授與式は、去月二十八日なほ又繰糸教師なりし第六回生絲整理法傳習生氏名は左の如くなりと云ふ。

府縣名	蠶見發育狀況	桑葉の過不足	上蔟中の現樣	繭相場の見込	收繭高豫想
第長崎	良好	過不足なし	良好なり	平均四圓七八十錢最高五圓	前年より一割増の見込
大分	良	過不足なし	良好なり	最低四圓位八十錢	百年前内外より二割方増し六千二
一熊本	良	過不足なし	良好なり	御蔵値は實五圓五十錢手	百石内外
宮崎	良好	過不足なし	良好なり	繭値は實五圓五十錢	霜害甚敷の爲昨年より一割
鹿兒島	發育良好樣過早し	多少餘りあり	良好なり	蠶當期頃る早く成熟良好	五分減少ならん
郡島	普通に經過せり	過不足なし	良好なり	平均四圓七八十錢最高五圓	前年より一割方増し六千二
二愛媛	良好に發育せり	過不足なし	良好なり	最低四圓位八十錢手	百石内外
區知	三齡迄十日間の降雨と過度高温にて多少の病蠶を出せり	過不足なし	良好なり	御蔵値は實五圓五十錢手	霜害甚敷の爲昨年より一割
高	良	過不足なし	良好なり	繭値は實五圓五十錢	五分減少ならん
山口	良	過不足なし	良好なり	三圓五十錢見當	前年より一割増の見込
郡廣島	發育良好	過不足なし	良好なり	實五圓乃至四圓五十錢	百石内外
島岡	良	不足なし	良好なり	實五圓五十錢見當	霜害甚敷の爲昨年より一割
山口	良	現分過剰の見込	良好なり	四圓乃至四圓五十錢見當	五分減少ならん
島取	良	殆んど過不足なし	良好なり	實五圓三十錢より四圓五	前年より一割方増し六千二
鳥佐	良	過不足なし	良好なり	十錢見當	百石内外
兵庫	概して可良	過不足なし	良好なり	目下五十錢	霜害甚敷の爲昨年より一割
大阪	良好	過不足なかるべし	良好なり	未だ知り難し	五分減少ならん
府堺	良	過不足なかるべし	良好なり	目下の樣子に依り進てときは	前年より一割方増し七千九
都	普通に發育せり	現分餘る見込	良好なり	上蔟中晴天打續き繭良好	百石内外に達すべし
京	良	不足なし	良好なり	目下良好なるべし	一萬五百石内外
郡奈良	良				
和歌山	良				
第滋賀	良				
三重	良				
岐阜	良				

蠶桑雜報

世界の蠶況

歐洲の養蠶は時候不順の爲め一般に遅れたるが各國共に順調、且は傳染病四に早きは既に二眠、平均三眠に向へり、蠶糞等もなければ、殆んど一眠か二眠なれと、伊太利三眠中獨太利、佛牙利三眠に向へり、近東諸國は、ブルサ、土耳其既に三四眠中、シリア新疆品質極上、一キロに付二法九十乃至三法中、大口の商談なりとに出三百五拾五百俵中、ブルサ、土耳

▲各府縣の蠶況

前號に掲載以後本省に達したる各府縣通信要員よりの第四回報告に依れば、桑葉の發育は通常の降雨を得て各府縣共良好、蠶の繁茂を來す爲收穫多量し、供給商譚とり不足の聲を聞かず、從て價格頗る低落に蠶見の發育又各府縣を通して至極良に其經過も逐次なる傾きあるを以て、飼料豊富の中には、早きは去月五日の蠶蔟を抱へて多忙の體にあるもの大部分なれども、中今の蠶温暖引続き高温多湿の潤澤と相俟ち蠶見の孵食を少水引くべしとも無とも、之等は即て桑葉の潤澤と相俟ち蠶見の孵食を少水引くべしとも無とも、之等は即

又第六區の第三回報は左の如し

府縣名	蠶兒の發育と蠶繭の檢査	桑葉の發育と蠶繭の檢査	蠶兒の經過	蠶繭の經過	考
第四區 愛知 岡崎	概して良好なれども不注意の點に依り多少病蠶を見る	殊分別あらん	過不足なからん	良好なるべし	昨年より一割内外減少せんか昨年収十四萬九百七十九石
第四區 靜岡 三川	三回飼共に良好にして經過良好	多少別途あるべし	過不足なし	今年は良好なるべし	平均四萬内外
第四區 石井	也も良好なるも一部に於て多少病蠶を見たるも經過良好	過不足なし	過不足なし	未だ知り難し	高百五圓十八錢就當四圓一十五圓四圓二三十錢
第四區 富山	良好	過不足なからん	過不足なからん		四圓内外
第四區 山田	良好	過不足なからん	過不足なからん		百四圓五十錢見當約二萬石
第五區 長野	發育良好にして經過早し	殊分別あらん	豐富なり	良好なるべし	平均四十掛見當
第五區 埴科	良好蠶體あるを聞かず	過不足なからん	多少別あべし	未だ知り難し	今年は平年作
第五區 小縣	良好	過不足なからん	上族せるものなし	僅かに上族せるもの良好なり	四十二三錢の見當
第五區 東筑摩	良好	豐富なり	上族せるものなし		賣買價乃至四圓五十錢
第五區 東京	良好	多少別あべし	上族せるものなし		賣買價乃至四圓六十錢
第五區 茨城	良好	過不足なからん	上族せるものなし		賣買價三圓六十錢
第五區 栃木	良好	過不足なからん	上族せるものなし		賣買價過三圓六十錢
第五區 群馬	良好	豐富なり	上族せるものなし		賣買價七十錢
第五區 埼玉	良好	豐富なり	上族せるものなし		賣買價過三圓七十錢
第六區 新潟	良好	豐富なり	上族せるものなし		賣買價五十錢
第六區 島根	良好蠶あるを聞かず	過不足なからん	上族せるものなし		賣買價乃至四圓五十錢
第六區 宮城	良好	過不足なからん	上族せるものなし		賣買價乃至四圓五十錢
第六區 山形	發育最も良好	多少別あべし	上族せるものなし		賣買價乃至四圓五十錢
第六區 福島	良好	過不足なからん	上族せるものなし		賣買價乃至四圓五十錢
第六區 岩手	良好蠶あるを聞かず	豐富なり	上族せるものなし		賣買價乃至四圓五十錢
第六區 秋田	良好	豐富なり	上族せるものなし		賣買價乃至四圓五十錢

文藝

懸賞

俳句

花の本花翁宗匠選

秀逸

蠶兒の成分と蠶兒の發育及繭質との關係試驗（繭模）
蠶の種類試驗（繭模）
桑葉原種選拔試驗
蠶の飼育試驗
化性試驗（繭模）
經費試驗
蠶病試驗（繭模）
蠶病試驗（繭模）
上族試驗
桑葉の成分と蠶兒の發育及繭質との關係試驗（繭模）
撥種法試驗（繭模）
產卵試驗（繭模）
飼育試驗（繭模）
蠶の種類と蠶病との關係試驗（繭模）
桑葉原種選拔試驗
化性試驗（繭模）
經費試驗
蠶病試驗（繭模）
蠶病試驗（繭模）
蠶病試驗（繭模）

▲東京蠶業講習所蠶況　同所に於ける各種試驗用蠶兒の幼蟲六十五分は五月廿日に、調査生繭第用蠶兒の幼蟲五十一匁三分は五月廿五日に掃立てられたるが、爾來何れも共經過頗る良好にして、去る廿八日の頃迄が最も大部分上族したり、而して本蠶期に於て試驗せられたるものは左記の項目なりとしたり。

▲日本生絲直取引　伊國へ輸入する日本生絲は現時傳國馬耳塞及里昂なる經由するを以て三國の手數料を要し且つ取引の發達を阻害すること尠なからざるを以て特に名古屋商業會議所は特別法廷を開設して日生絲直接試驗を行ひ伊國商業會議所に於ては之を公認として現金拂を爲し本邦蠶業者の利益を圖ることなりしよしにて當業者に於ては知方なる外後者を經て本官に依賴し來れり。

▲登録玉繭運賃特定　繭紙法第六條の規定に基き去る廿日を以て特定し來る六月一日より本日を施行する由

貨切扱殺每内二百哩以上一噸一哩に對して金二錢二百哩未滿の場合は二百哩分を支拂ふこと

繁殖試驗（繭模）
消毒試驗
野蠶に關する調査

人

瞬はしき里の小川や夏の月　尾張　松堂

地

彗星を見に出る夏の月夜哉　甲斐　玉池

秋に増す跳めや夏の朝月夜　遷者　花翁

天

追加

天　下　毛　綠　天

懸賞募集 狂句（第二十八回披露）

金坊子選

▲秀　逸

雷の鼓の響やっと近くなり　備後　花棠

蛙の鼓の響やっと近くなり　備後　梅鳥

蛙の鼓の響やっと近くなり　備後　天外

▲人　賞

居候上達して病氣が全快し　栃木　中島露逗坊

▲地　賞

蠶の原因蠶病外の天狗病　愛知　鈴木　松堂

▲天　賞

蠶種屋風呂敷遊蠶の罪に包む　相模　佐々木其蠶

▲選者吟

蠶で不手滝の鯉には思められ　金坊子

懸賞募集 俚謠（第二十八回披露）

高橋鬼川選

▲秀　逸

機上電話に小粋な男　愛知　河合　猛庵

▲地　賞

絲の相場か繭の値か　福井　西村　咲女

▲天　賞

乳を吸ふ間についうとうとと眠るうちにもお蠶の夢　福井　鬼川

▲選者吟

與作まつ夜の月影更けて門に小萬が夜桑摘む　信濃　中島放言山人

唄て繭積む馬さへ勇む　愛知　同人

料て小町の女馬士　信濃　同人

◎

明日は賣られて行くのか繭と娘心に化粧する　信濃　同人

懸賞募集 一と口噺（第二十八回披露）

▲秀　逸

◎×　備後　池田天外

甲「貴様は僕のことを嫌とも思はないと云つたさうだが實に失敬な奴だ」乙「そんなら為から君が嫌と思ふから嫌にしてゝ呉れ給へ」

◎鉄の機嫌　信濃　中島放言山人

姑「蠶の機嫌はなか〜取り難いだらうよ」嫁「それでも貴女の御機嫌が取れるよ

▲人　賞

蚊帳あの桑摘みの、唄がばつさり分るほど浮いて〜暮した末は、丸の鍋で炊む飯、寒風出して貧乏ぶる、地が珍で沙汰する、家内取て馬ふて、男ふて、盛りの桑摘び切れた絲には小蠶が出來る、切れた絲には蠶がおつく

秋田　風柳
愛知　下川
愛知　階水
信濃　放言
愛知　岬東

▲五　彩

吹けよ　秋風の桑摘の、唄があつさり分るほど浮いて〜暮した末は、丸の鍋で炊む飯、寒風出して貧乏ぶる、地が珍で沙汰する、家内取て馬ふて、男ふて、盛りの桑摘び切れた絲には小蠶が出來る、切れた絲には蠶がおつく

福島　村上
山梨　二笑
秋田　風柳
茨城　流水
信濃　星外
愛知　市朝
愛知　鮮鳳
愛知　猛鳳
埼玉　校令
愛知　岬有
愛知　麻德
信濃　江有
愛知　同人
信濃　放言
愛知　同人
福井　咲女
同　人

りも大一層に樂で御座います」

◎蠶の都會　京都　水野黄島

「貴の家の蠶にはムラがあるれ」乙「村ならもだんがい貴のとこの蠶に都會があるさうだれ」

◎會報の購讀法　愛知　河合閑水

「何がいです、愛知に來て居ると、度々申しに來て居ると、ちっとも分らぬ。から購讀を貴ふがよろしい」

▲人賞

◎運蠶　京都　前田二葉

子供「運れて捨てた蠶を飼はせう」母「運れたのは駄目だからお止しなさい」子供「でも龜さんが兎に勝つたから運いのはよいかも知れないから」

▲地賞

◎惡害地　古河　相川政太郎

甲「君は今度惡害地を視察して來たさうだが、青い物は皆無だと云ふ話だぬ」乙「そりゃ嘘だ、淚害地の人民は皆眞黃黃になつてるよ」

▲天賞

◎虫供養　滋賀　田村梅島

子供「お父さんお隣りの蠶が提灯行列をして居ますつてね」父「ナニそれは虫供養の前觸れをして居るのよ」

▲人賞

◎夕べれ　丹波　泉凸坊

川向ふの山麓を汽車が通つた後は、また元の靜かな空氣に飽匂ふ搬の香が漂はして居る、人目は針に洲畑の夢を金色に照して、時々雲雀が礫のやうに落ちて來る、講習所の天氣豫報して、白が上がつた、明日も晴だ。

詩に曰く「あゝ夕べれ付にて仕方人は夕べ蠶だ」　淡路の紅葉篇

▲地賞

◎寂しき夜　京都　吉川鬼外

牛賣つた晩てた、蠶は川へ流してしまつたし、お父さんは四五日前から夜遅く迄歸らないし、母さんは僕の傍に居て下さるが、灯がつくとさめ〳〵と泣きなさるので、僕は何となく悲しく思ひました。

詩に曰く「悲しい此一と晩に無言にして蠶客を泣かしむるに足る」

▲天賞

◎夏の日　信濃　中島放言山人

製絲工場の眞白な壁に、日光が照りつけて眩しく輝いて居る乾してある製糸工場が日に蒸されて蠶の香がプンと鼻をつく、百日紅や槐の花が美しく咲いて、風もないのにパラ〳〵と落ちる、蠶工場の樹の蔭の蟬が遠く惰るさうに聞える、暑い日だ。

詩に曰く「暑ッ力現蟬、夏の日ムクムクに蒸されたり」

蠶いだと聞いた捨てんは今年は繭りに來て居ると「捨てさん」と云ふと「何がです、愛知に來て居ると、度々申しに來て居ると、ちっとも分らぬ。愛ふがよろしい」と捨てさんは云はずに去つた。

夫の休憩に歸つた時、捨さんに蠶、人先から聞いて居なかつた。

▲人賞

◎夕べれ　丹波　泉凸坊

川向ふの山麓を汽車が通つた後は、また元の靜かな空氣に飽匂ふ搬の香が漂はして居る、人目は針に洲畑の夢を金色に照して、時々雲雀が礫のやうに落ちて來る、講習所の天氣豫報して、白が上がつた、明日も晴だ。

詩に曰く「あゝ夕べれ付にて仕方人は夕べ蠶だ」　淡路の紅葉篇

▲地賞

◎寂しき夜　京都　吉川鬼外

牛賣つた晩てた、蠶は川へ流してしまつたし、お父さんは四五日前から夜遅く迄歸らないし、母さんは僕の傍に居て下さるが、灯がつくとさめ〳〵と泣きなさるので、僕は何となく悲しく思ひました。

詩に曰く「悲しい此一と晩に無言にして蠶客を泣かしむるに足る」

▲天賞

◎夏の日　信濃　中島放言山人

製絲工場の眞白な壁に、日光が照りつけて眩しく輝いて居る乾してある製糸工場が日に蒸されて蠶の香がプンと鼻をつく、百日紅や槐の花が美しく咲いて、風もないのにパラ〳〵と落ちる、蠶工場の樹の蔭の蟬が遠く惰るさうに聞える、暑い日だ。

詩に曰く「暑ッ力現蟬、夏の日ムクムクに蒸されたり」

懸賞募集　寫生文

高橋鬼川選

▲秀逸

◎夏の夜　京都　田幡晩塵

蠶の淚い魂の雲が月の光に浸つて軟らかい絹に吹く度に蠶は軟らかに動く、由の蠶のなかに蠶が月の光に浸つて軟らかい絹に吹く度に蠶は軟らかに動く、蠶れたなら仰いで居る、耳元近くに社、鵑が一聲、天地の靜さが破つて鳴いた、冷しい夏の夜だ。

◎快苦　備後　藤原白峰

長打の響と鐘に夢を破られ、業疲れ事だと月外の蠶出した、火の手は木村君の蠶、家一軒、上に被はれた、木村君は、自分の蠶が焼る、都の色、光は高く上り、蠶は、上に被はれた、木村君は、自分の蠶が焼る、都の色、光は高く上り、蠶は、支する、嬉や快、々為して、五盤未だ冷めやらぬ間に此の有様、嬉、呼吸の中に其に知るからずである。

◎其瞬間　京都　甲中翠峰

蠶とは云はず蠶と云ふ方が適当なる程なる蠶の大事を聞いて、先登の路から我家へ着いたにかりつゝ水に浸したやうな嬉々を殺して、岩に腰掛て煙草を吸ふ。

都人士の夢想にも及ぶ所のものでない。

◎東都の兄へ　信濃　荻原玉流

兄上急御歸郷して下さい、今年は男子と雖、校分がへたので、其分蠶も多くしました。それにいつつの蠶は、繼者になれたが、兄のが無くなつて、家中手が出ないつて云つて居ます。も一蠶見殺生の時期も後れて來ました。

◎捨さん　西ケ原　澤崎凸坊

蠶海涓滴

△蠶種統一　問題は二十六萬餘に及ぶ會建議し政府其提言を容る原統に民間の製造に一任せず政府与模範原統を造りて分配する一策と鳴山博士語る。

△博士又曰　愛分蠶則の蠶味を生ずる家あるも蠶種統一の方法と多少の優性を地ふる比も之が為に失れ然らん唯政府に廟行の為嘆あり如何。

△生産調査　會息本日を以て同から勞働講習組に上らば蠶種一間題也七十餘名當信の委員如何なる國業を以て之を指講せんとするか蛇生殺的出路は平に御免。

△去十一日　長興市蚕場製繭場の乾繭器破裂して從業中の人夫一名即死し五名重傷を負ふ。

△滿州柞蠶　幽の親一ヶ年約四百十五六萬兩條五百十餘萬圓を賴に上り輸出額の二千萬圓迄隆さにあらずといふ南滿柞蠶製絲業の將來頗る有望。

△英德南滿　銀道柞蠶會白法の發見を機と大連に柞蠶製絲場設計編島縣の女工育名を採近を之を國如するに伏しとり是も富國開發の一策か。

△韓國客道　に於ける農事試驗場の各種農産物試作の結果大豆は論其他果物は概種無を除く外、林檎、桃梨柿等孰れも出來樂に蠶蠶に上りの出來。

△東洋拓殖　會社の後農家の副業として次に養蚕を發勵せんとし面積方面の拓殖と詳る蠶間拓に着手せりとは大に好し東亞煙草と相待て効果を擧げる。

△本會出品　富士の模型を觀たる美人之が驚にて聞き及べる富士山と感歎樹の成を知らず見向人は始終人を打つの感況なりと樹模樹の成功可觀ヤ。

△長野縣本　年度原種用蠶種製造總數百九十八萬四千九百十三枚中蠶年種六十五萬二千七枚分蠶と昨年より多き事近に出八萬七百八十枚徴增又徴增。

△大年の春　蠶分年收益其好なりしも殘桑者と桑賣目的の農家大奏歓夏秋蠶ても飼育に成績なかは來ずんと呼今四苦八苦の状態色とは物の語。

△奚城縣眞　種殖を要材彼地豐八郎氏の製造に譯る蠶種共くも東宮殿の御用を仰付られしと仕上の光榮此繭有と風命を拜ほしたる氏の喜び果て如何。

文藝懸賞募集

俳句

七月分の題六月末日ゞ切締無投書
全年分の課題は二百十三題に在り

▲選者　花の本花翁宗匠
▲課題　蝿手。甘酒。凉。蚊。夏蕨
▲懸賞　天(月分)一人宛賞一ヶ年分◎地一人宛賞半ヶ年分◎人一人宛賞三ヶ

▲規則　句稿一枚に一題宛り一句に付五句以内とし五句以内の句に題名の記入なきものは無効とす。句稿の末尾に郵便番号住所氏名を明記せざるもの無効とす。句稿は毎月末日迄に到着のものに限り翌月の分に入るも翌月末日迄に到着せざるものは無効とす。

狂句

（柳川）

▲選者　高橋鬼川先生
▲課題　蝿絲雲に關係あるものなら何例にてもよし
▲懸賞　天(月分)一人宛賞一ヶ年分◎地一人宛賞半ヶ年分◎人一人宛賞三ヶ

俚謡

（都々逸）

▲選者　高橋鬼川先生
▲課題　蝿絲雲に關するものにて女工などに唄ひしめても差支なきもの（但し卑猥なるものは投書とす）
▲懸賞　天(月分)一人宛賞一ヶ年分◎地一人宛賞半ヶ年分◎人一人宛賞三ヶ

（原稿ゞ切毎月三十日限り）

一と口噺

（原稿ゞ切毎月三十日限り）

▲選者　高橋鬼川先生
▲課題　何にてもよし但し卑猥なるものは投書とす
▲懸賞　天(月分)一人宛賞一ヶ年分◎地一人宛賞半ヶ年分◎人一人宛賞三ヶ

五行文

（東文）（名寄）

▲選者　高橋鬼川先生
▲課題　蝿絲雲に關する首般の事ゟ見聞した儘面白く認すこと文體は簡意
▲用紙　稿書一枚に一題限り一行二十字詰にして五行に認すこと

懸賞　天(月分)一人宛賞一ヶ年分◎地一人宛賞半ヶ年分◎人一人宛賞三ヶ

注意

狂句・俚謡・都々逸・一と口噺・五行文の投稿は一枚に付き五句以内とし日嚴五行文一人に付五つ限り宛▲用紙は郵便はがきに限る▲應募者は本會員若くは會員以外と記し住地の郵便村番地姓名雅號共明記し大日本蝿絲會文藝懸賞係に送ちべし住所氏名無き分は總て其選に入るも賞品せず

大日本蝿絲會報廣告料

回數	特等 一頁	特等 半頁	特等 四分ノ一頁	並等 一頁	並等 半頁	並等 四分ノ一頁
一回乃至六回ニ付	貳拾圓	拾貳圓	七圓	拾五圓	八圓	五圓
七回以上（一回ニ付）	拾七圓	拾圓	六圓	拾貳圓	七圓	四圓

●會員は右料金の二割引とす●四分の一頁未滿は謝絶す●前金にあらざれは掲載せず●一頁は一行二十七字詰七十二行とす

◉本報定價　一冊金拾五錢　一ヶ年前金壹圓七拾錢

明治四十三年六月二十日印刷發行
東市京神田區錦町三丁目十八番地
編輯兼發行人　小池市松
東京市神田區須田町二丁目一番地
印刷所　烏連太郎
東京市神田區美土代町二丁目一番地
印刷人　三舍秀活
東京市神田區錦町三丁目十八番地
發行所　大日本蝿絲會
（電話本局一四七三番）

EMPIRE DU JAPON
CONDITION DES SOIES DE YOKOHAMA.

MOUVEMENT DU 1er AU 31 Mai 1910.

Mois et Années.	Conditionnement des soies grèges. Nombre.	Poids net.	Poids conditionné.	Moyenne du poids net.	Passage des soies grèges. Nombre.	Décroissage des soies grèges. Nombre.	Boucle des soies grèges. Nombre d'épreuves.
Mai 1910	3,642	181,029.33	179,248.25	1.32	36	7	4,001
Mois précédent	3,431	171,192.45	169,579.80	1.48	98	"	5,063
Mai 1909	3,073	156,171.10	154,089.02	1.33	47	"	4,208
Total depuis Janvier. 1910	15,344	775,049.43	767,551.83	1.47	383	15	23,476
" " 1909	14,730	750,925.80	728,009.85	1.58	123	"	20,716
" " 1908	15,039	642,985.36	624,300.21	1.77	"	"	13,160
" " 1907	9,575	435,581.62	426,365.04	1.52	"	"	7,760
" " 1906	12,968	506,458.59	485,473.30	1.78	"	1	9,161
" " 1905	10,154	473,217.95	464,919.51	1.75	"	"	7,987

Le Directeur de la Condition des Soies,

A. SHITO.

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES RÉPARTI PAR JOURS.

DIAGRAM SHOWING DAILY MOVEMENT OF RAW SILK.

Jours. Days.	Arrivée. Arrived.	Vendue. Sold.	Renvoyée Sent back.	Exportée. Exported.	Noms des filateurs. Names of filatures.	Maximum du prix. Highest prices. Prix. Prices.
	Sole. Piculs.	Silk. Piculs.	Piculs.	Piculs.		Yen
1	—	—	—	—	——	—
2	553	281	10	—	Shunmeisha	855
3	291	257	21	808	——	—
4	343	267	17	636	Nitshecikan	910
5	598	435	64	—	Jyoshuisha	835
6	210	555	39	—	Suiôseishi	835
7	214	454	29	647	Okayaseishi	840
8	—	—	—	—	——	—
9	468	484	37	—	Oguchigumi	840
10	291	487	35	—	Arayaseishi	855
11	331	570	86	1491	Ebayokan	860
12	177	550	38	—	Shinsaisha	875
13	318	568	47	—	Shunmeisha	845
14	488	489	56	—	Meijisha	895
15	—	—	—	—	——	—
16	552	363	34	—	——	—
17	260	588	43	—	Shunmeisha	850
18	279	765	41	—	Yamatogumi	445
19	221	593	624	502	Togosha	845
20	—	—	—	—	——	—
21	415	298	34	—	Enomotoseishi	890
22	—	—	—	—	——	—
23	797	393	35	731	Doiseishi	880
24	136	488	52	—	Nishinkan	850
25	262	698	52	2320	Suminawasha	900
26	208	447	28	—	Kumagaiseishi	850
27	182	497	35	—	Ishihara, Katakula.	851
28	294	360	17	1.416	Daikosha	880
29	—	—	—	—	——	—
30	282	412	24	—	——	—
31	340	401	29	1.190	Bandokan	885
Total	12.098	11.702	971	9.828	——	—

1 yen vaut environ fr. 2.50. 1 Picul = 60 kilg environ.

TABLE OF MOVEMENT OF SILK IN DIFFERENT INDUSTRIES.

(May 1910.)

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES RÉPARTI EN DIVERSES INDUSTRIES.

(Mai 1910.)

	Report. Brought over.	Arrivé. Arrived.	Vendu. Sold.	Exporté. Export.	Renvoyé. Sent. back.	A reporter. Brought forward.
	Picul.	Picul.	Picul.	Picul.	Picul.	Picul.
Filature. Filature.	11.819	3.478	11.544	—	847	69.306
Zagui. Reeel.	210	165	158	—	104	114
Kakoda. Orihoyshi.	41	2	—	—	30	13
Autres. Other.	27	16	—	—	20	24
Total.	12.098	7.331	11.702	9.828	971	7.0957
1909.	12.074	3.077	10.287	5.390	1.200	8.675

MARCHÉ DE YOKOHAMA.

Voici la situation de notre marché au mois de Mai dernier.

Comme continuation de la fin du mois précédent, notre marché a été toujours plongé dans l'accalmie. Pendant les dix premiers jours surtout, quelques marchands vendant à bas prix pour se débarrasser de leurs marchandises à cette saison intermédiaire, Shinshu No 1 a reculé de 840 yen à yen 835, les titres fins et les articles ne provenant pas des centres de production ont accusé quelque vingtaine de yen de baisse. Mais les acheteurs ont encore hésité à acheter. Tant le marché a été calme.

Pendant les vingt derniers jours, les demandes nouvelles de l'Europe et de l'Amérique étant arrivées, toutes les maisons, tant étrangères que japonaises ont pressé leurs achats, de sorte que le nombre des balles traitées a considérablement augmenté. Environ 1,000 balles ont été journellement traitées. A la fin du mois, les stocks se sont réduits enfin à 12,000 en chiffre rond. Pourtant, la plupart des transactions n'ayant pas été publiées le marché a été plus calme que l'on ne le pensait.

Les tableaux suivants indiquent d'ailleurs le mouvement de la soie durant la même période.

THE RAW SILK MARKET OF YOKOHAMA.

The dull state of the Yokohama Raw Silk Market at the end of March did not improve. At the beginning of May the market sank to the lowest ebb, and the state of things grew worse, as some made clearance sales of their goods in order to prepare for the new season. The result was that Shinshu extra No. 1 fell from 840 yen to 835 yen, while raw silk of fine size and raw silk produced in places outside of the first rate silk producing districts, fell ten or twenty yen. Even at these low prices buyers were not ready to strike a bargain. From the middle of the month, however, orders for Europe and America gradually appeared and as both Japanese and foreign houses proceeded to lay in goods, about a thousand bales were daily transacted. Owing to this happy change of situation the store of goods on the market diminished, until only 12,000 bales remained at the end of the month. But as most of these sales were not made public, they did not affect the market as much as they would have done otherwise.